多様な学習を支援する高等学校の推進事業

～通信制高等学校における多用な生徒への個別支援システムの研究・開発～

報告書

事業期間：平成 27 年 3 月～30 年 3 月

学校法人　国際学園

多様な学習を支援する高等学校の推進事業完了にあたって

平成 27 年度より取り組んできた、文部科学省委託の多様な学習支援推進事業「通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究・開発」が完了いたしました。

調査研究校であった星槎国際高等学校の生徒及び教職員の皆様には大変長期に亘ってご協力をいただき、誠に有難うございました。加えて、本事業推進会議専門委員の方々、システム開発に多大な労力を寄せていただいた株式会社オープンソース・ワークショップの皆様にもお礼を申し上げます。

思えば、学校法人国際学園の設置する広域通信制高校である、星槎国際高等学校での更なる生徒支援を通じた教育活動の質の向上を図ることを目的とした本事業を進めているさなかに、広域通信制高校における就学支援金の不正受給をはじめとして、不適切な教育活動が社会に問題視される事件が起こりました。その結果、広域通信制高校の新たな役割とその有用性が社会で認知されてきたにも関わらず、社会は通信制高校に疑いの眼差しを向けることとなりました。今や高校生の 20 人に 1 人が通信制高校に在籍する時代、まさにその質の向上が図られるべきであることは必須であるにも関わらず、この事件は私どもの推進事業はもとより、心ある多くの通信制高校関係者に冷や水を浴びせることになったのです。

このような状況下だからこそ、本事業は多くの意味を持つものとなったという認識のもと、調査研究校の教育理念である「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げること」の達成のために、私どもは全国に在住する生徒たちに何をなしえるかを考察分析し、システムの開発を図ってきました。

様々な背景を持つ生徒達に対して、その個々の状況を把握し、通信制ならではのアプローチで指導に当たるためのキャリアガイドシステムの構築は、大きな意味を持つものであると考えています。そして、この推進事業が他の通信制高校はもとより、高等学校教育の考え方に一石を投じるものになれば幸いであります。

最後に、全国に居住する 5000 名を超える生徒のために、多大な労力を本事業に費やしていただいた星槎国際高等学校教職員の皆様に、再度敬意を表するとともに深くお礼を申し上げます。

多様な学習支援推進事業に関する検討会議
座長　平出　彦仁

「通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究・開発」

調査研究校　学校法人 国際学園　星槎国際高等学校長　前田　豊

標記調査研究における平成 29 年度（調査研究 3 年目）研究調査報告書発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本研究調査の調査研究校として最終年を迎え、文部科学省をはじめとする関係諸機関の指導助言をいただきながら、調査研究を進め最終報告書を作成する運びとなりました。

本校は、平成 11 年（1999 年）に開校した広域通信制高等学校です。在籍生徒数は 4,949 名（平成 29 年 5 月 1 日現在）であり、全国に在住しています。開校時より新たな形態の通信制高校を目指して、全国に学習センターを配置し生徒への適切な支援体制を実現すべく教育活動を展開しています。多様な生徒に対応するために教員は星槎教育研究所の協力で支援教育カウンセラーの資格を有して指導にあたるなど着実に成果も上がっているところですが、個に応じたよりきめ細かな生徒支援・相談体制を構築して自己実現につなげていくかが課題の一つになっております。

調査研究 1 年目では、本校が進めている教育活動の一層のレベルアップを図り、多様な生徒の学習ニーズに応えるため、生徒の中学時もしくは前籍校時の状況調査、入学時から卒業時までの状況調査、この間どのようなアプローチを実施したかの調査とともに生徒状況とアプローチを類型化し、生徒全員の指導計画を作成するシステムを研究しました。その結果生徒の状況に適した目標設定、教育環境の提供により、個に応じた対応を実現し、学習意欲の向上が図られ、生徒が将来を担う主体としての社会的自立を実現できるよう指導するための支援計画を作成するシステム（キャリアガイドシステム-β版）が構築され、システムに連動するアンケートを実施しています。

調査研究 2・3 年目は、キャリアガイドシステムへの入力情報の推進・精査、ブラッシュアップに努め、調査研究を進めています。こうした調査研究により、通信制高等学校を選択する生徒像の大まかな把握ができるデータづくりには資するものであると考えていますし、教職員が生徒の特性や成長に気づきやすく、面談力の向上につながると考えています。しかし、生徒のキャリア学習に対してのアプローチには課題が残るところです。今回、この報告書では現在の取り組み状況、成果と課題等を示しています。まだまだ不十分な調査研究であり、今後も皆さまの忌憚のないご意見をいただきたいと思います。そして、本校の教育活動全般の更なる改善につなげていきたいと考えています。さらには、高等学校通信制教育全体の質の確保・向上に寄与すべく、取りまとめた研究成果を広く普及してまいりたいと考えています。

結びに、3 年間本校の調査研究推進にあたり、多大なご支援をいただきました関係諸機関の皆さまに厚くお礼申し上げ、研究成果報告書の巻頭言といたします。

【目次】

１	事業実施の背景	8
２	事業実施の概要	12
３	事業実績及び成果と課題	18
４	考察-1　高等学校通信制教育の展望	24
５	考察-2　推進事業該当法人・委員会の学習支援の傾向と国際高校の視点について	27
６	考察-3「わたし」をつくり続けるプラットフォーム	30
７	考察-4　臨床心理学からの考察	34
８	資料	40

キャリアガイドシステム・ユーザーマニュアル

生徒記入用紙

基礎情報シート（教師記入用）

対生徒アンケート（基本情報／A／B）

事業実施の背景

事業実施の背景

新制高校の進学率は、戦後すぐには 40%程度というところからスタートして、70 年余りを経た今、98%を超えるものとなった。中学校卒業後、2 人に 1 人が進学するという状況から、ほぼ全員が進学するものとなり、今や、「高校ぐらい出ているのが当たり前、就職できない」といわれるような社会になっている。

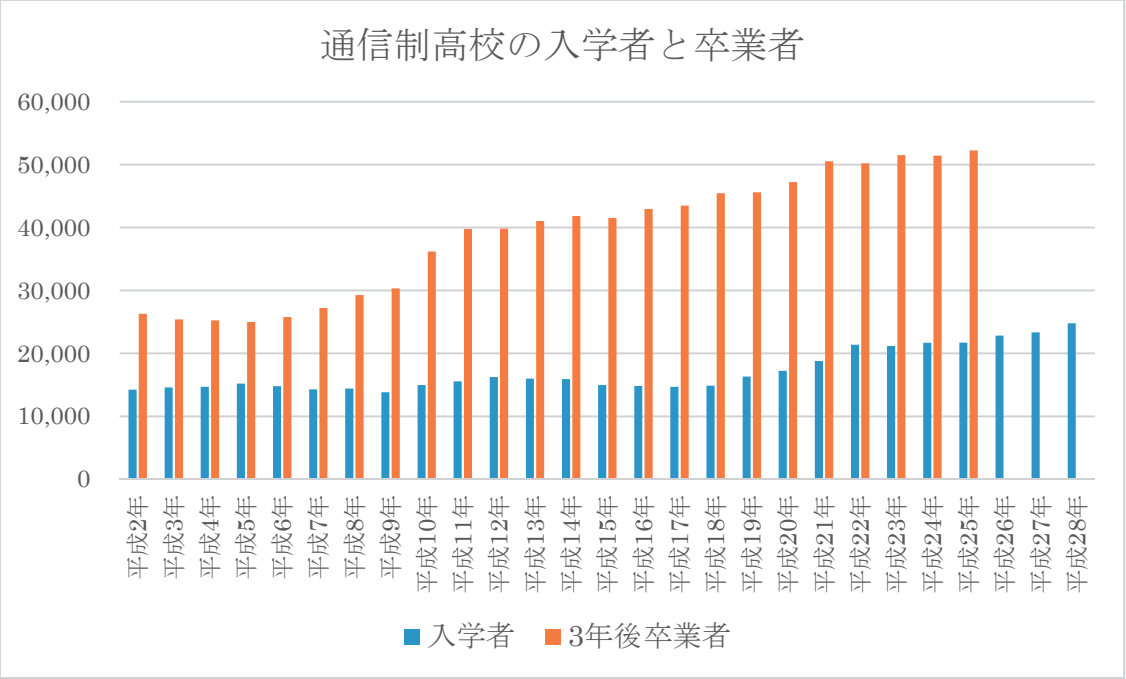
この中で通信制高校が果たしてきた役割は、時代とともに変化しつつも、とても重要なものであった。

通信制高校は、戦後すぐに全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与えるために生まれた。かつては全日制・定時制に通学できないとは、経済的な事情が多くの理由を占めたが、平成に入るころから通学できない理由が、学力の問題であったり、不登校の問題であったり、既成の学校への反発であったり、通学できないのではなく通学する意思がないなど実に多様化してきた。

また、通信制高校に通学する生徒の多様化に応じるように、いわゆる通学型通信制高校と呼ばれる形態が一般的になってきている。通学型通信制高校とは「通信の方法」を使った、「通学型」「全日型」の「全日制・定時制」でない高校ということである。広域通信制高校とされている 106 校のうち、本校以外の通学できる施設（学習センター・技能教育施設・サポート校）を持つものは 65 校となっている。

平成 28 年度中の通信制高校卒業者数は約 5.2 万人であり、当該卒業学年にあたる 3 年前の通信制高校入学者数約 2.2 万人の 2.4 倍となっている(次項参照学校基本調査より作成)。この数字は全日制・定時制高校からの転編入学者によるものと考えられる。この状況は平成 10(1998)年以降顕著になってきている。また、平成 10(1998)年に公立 69 校・私立 31 校だった通信制高校は、平成 26(2014)年には、公立 77 校・私立 154 校、株式会社立 21 校という状況になった。

このような状況がなぜ起こり、その状況に対して通信制高校はどのように対応していくべきか考えていくことは喫緊の課題であると認識している。また、現在高校卒業生のうち通信制高校卒業者はおおよそ 5%を占めることとなっている。この数字は 20 人の高校卒業生の内 1 人は通信制高校卒業生ということを意味する。通信制高校において通信教育という特性を生かしつつどのように教育活動にあたることができるかは極めて重要な課題である。



平成 25 年度より通信制高校も調査対象となった、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（平成 28 年度）によると、全日制・定時制高校からの転編入生を数多く受け入れてきたと考えられる通信制高校であるが、その退学者数もおおよそ 1 万人を数えるということが明らかになった。（下図「平成 28 年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より転載」参照）

	全日制								定時制		通信制		計	
	普通科		専門学科		総合学科		計							
	中途退学者数（人）	中途退学率（%）	中途退学者数（人）	中途退学率（%）	中途退学者数（人）	中途退学率（%）	中途退学者数（人）	中途退学率（%）	中途退学者数（人）	中途退学率（%）	中途退学者数（人）	中途退学率（%）	中途退学者数（人）	中途退学率（%）
1年生	9,402	1.3	4,174	1.8	91	1.8	13,667	1.4	1,505	17.8	801	7.9	15,973	1.6
2年生	6,464	0.9	2,677	1.2	81	1.7	9,222	1.0	750	9.6	421	4.2	10,393	1.1
3年生	2,247	0.3	791	0.4	30	0.6	3,068	0.3	377	5.2	236	2.2	3,681	0.4
4年生	-	-	-	-	-	-	-	-	157	2.9	92	5.8	249	3.5
単位制	1,117	0.7	213	1.0	1,879	1.2	3,209	1.0	6,062	9.5	8,056	5.6	17,327	3.2
計	19,230	0.8	7,855	1.1	2,081	1.3	29,166	0.9	8,851	9.5	9,606	5.5	47,623	1.4

事業実施の概要

事業実施の概要

【研究の目的】

本調査研究は、通信制高校に在学する生徒たちの状況を明らかにし、確かな学力や学習意欲の向上のための学習支援及び相談支援等にはどのようなアプローチとシステムが必要か調査・分析・研究し、今後の高校通信教育に望まれる具体的取り組みを示すことを目的とする。

【調査研究内容】

本法人の設置する星槎国際高等学校は平成 11(1999)年に開校した広域通信制高等学校である。在籍生徒数は 4,699 名（平成 26 年 5 月 1 日現在）であり、全国に在住する。開校時より新たな形の通信制高校の実現を目指して、全国に学習センターを配置し生徒への適切な支援を実現すべく教育活動を展開してきた。通信制高校ならではの全国を結んだ遠隔授業や星槎オリンピックと称して各地の生徒が交流するイベントを実施するとともに、多様な生徒に対応するために教員は星槎教育研究所の協力で全員支援教育カウンセラーの資格を持っている。

本研究調査は星槎国際高等学校を調査研究校として調査・研究・分析して、現在まで取り組んできた活動の一層のレベルアップを図り、より充実した生徒支援・相談体制を構築し多様な生徒の学習ニーズに応じた通信制高校の在り方やそれに基づく新たな取り組みを推進し提言する。

そのための研究内容として以下の事項を調査研究校にて行う。

１．在籍している生徒の、中学時もしくは前在籍校時の状況調査

２．在籍している生徒の、入学時から卒業時までの状況調査

３．入学時から卒業時までにどのようなアプローチを行ったか調査するとともに、生徒の状況とアプローチを類型化し、生徒全員の支援計画を作成するシステムを研究

【調査研究方法】

１．調査対象校生徒への半構造化面接による聞き取り調査

２．調査対象校教職員への半構造化面接による聞き取り調査

３．研究チームによる調査内容の検討と考察

４．考察に基づくシステムの開発

【星槎通信教育関連沿革】

昭和 59(1984)年 12 月宮澤保夫が文部大臣指定技能教育施設宮澤学園（現星槎学園）設立

昭和 60(1985)年 7 月宮澤保夫が学校法人国際学園を設立

平成 11(1999)年 4 月国際学園が星槎国際高等学校（広域通信制）を開校
平成 16(2004)年 4 月国際学園が星槎大学（共生科学部通信課程）を開学
平成 25(2013)年 4 月国際学園が星槎大学大学院（教育学研究科通信課程）を開設
平成 29(2017)年 4 月国際学園が星槎大学大学院（教育実践研究科・専門職大学院）を開設

【星槎国際高等学校学習センター】

星槎国際高等学校（本部校：北海道芦別市）は、開設時より学習センター方式を取っている。学習センター開設時には本校所在地である北海道による調査が行われ立地等の適切性を確認している。また、全都道府県の私学団体（私立学校）と教育委員会（公立学校）に各都道府県で教育活動を行うことの許可を受けて教育区域を設定している。

以下現在展開している学習センターを示す。

	センター名	位置	開設年
1	札幌学習センター	北海道札幌市	平成 11（1999）年
2	札幌北学習センター	北海道札幌市	平成 29（2017）年
3	帯広学習センター	北海道帯広市	平成 29（2017）年
4	仙台学習センター	宮城県仙台市	平成 16（2004）年
5	郡山学習センター	福島県郡山市	平成 12（2000）年
6	立川学習センター	東京都立川市	平成 16（2004）年
7	八王子学習センター	東京都八王子市	平成 22（2010）年
8	横浜鴨居学習センター	神奈川県横浜市	平成 17（2005）年
9	厚木学習センター	神奈川県厚木市	平成 18（2006）年
10	湘南学習センター	神奈川県大磯町	平成 27（2015）年
11	浜松学習センター	静岡県浜松市	平成 15（2003）年
12	富山学習センター	富山県富山市	平成 14（2002）年
13	福井学習センター	福井県福井市	平成 11（1999）年
14	名古屋学習センター	愛知県名古屋市	平成 27（2015）年
15	大阪学習センター	大阪府大阪市	平成 11（1999）年
16	広島学習センター	広島県広島市	平成 16（2004）年
17	高松学習センター	香川県高松市	平成 28（2016）年
18	福岡東学習センター	福岡県福岡市東区	平成 13（2001）年
19	福岡中央学習センター	福岡県福岡市中央区	平成 19（2007）年
20	沖縄学習センター	沖縄県沖縄市	平成 16（2004）年

通信制高等学校における多様な生徒への個別支援のためのシステムの構築【学校法人国際学園】

調査研究校　星槎国際高等学校（広域通信制高等学校）
（生徒数 4699 名、文科省に了解を得た学習センターを全国で展開、技能教育施設も展開）
研究体制　研究推進チーム（星槎国際高等学校　星槎大学大学院　法人本部）

高校教職員と
星槎大学大学院との連携

調査研究体制

学校法人国際学園《実施機関》

多様な学習支援推進事業に関する検討会議

《研究指定校》
星槎国際高等学校・全国学習センター
研究推進チーム
（高校教員、大学院教員、法人職員で構成）

星槎大学大学院教育学研究科「研究推進チームへの参画と支援」

背景
2 万人の入学者が卒業時には 5 万人になる通信制高等学校
ここ 15 年で学校数は 2.5 倍となった
この状況下でどのように教育活動にあたるのかは重要課題

目的
通信制高校に在学する生徒たちの状況を明らかにする
学習支援及び相談支援等にはどのようなアプローチとシステムが必要か調査・分析・研究する
今後の高校通信教育に望まれる具体的取り組みを示す

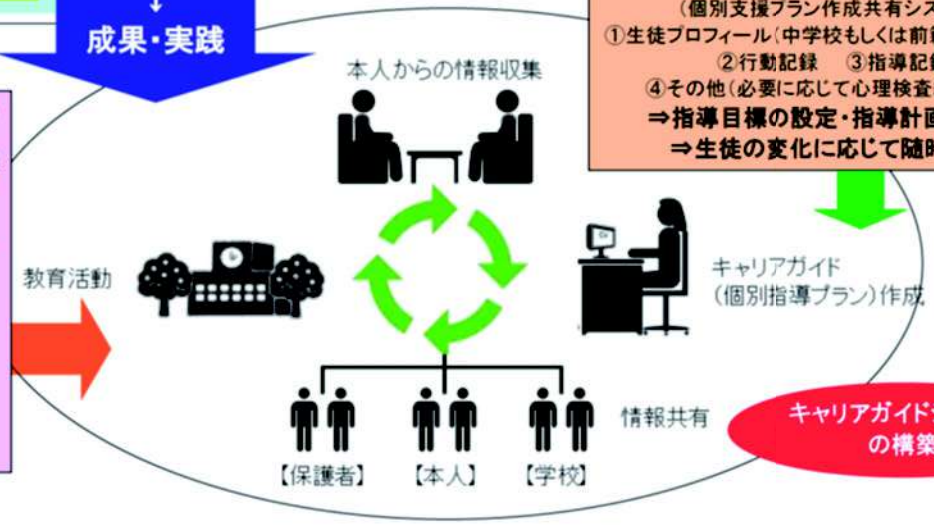
調査研究内容
在籍生徒の状況調査
支援体制の調査研究
キャリアガイド作成システムの構築

調査研究方法
1　調査対象校生徒への半構造化面接による聞き取り調査
2　調査対象校教職員への半構造化面接による聞き取り調査
3　研究チームによる調査内容の検討と考察
4　考察に基づくシステム（キャリアガイドシステム）の開発

調査研究
↓
成果・実践

在籍している生徒の中学時もしくは前在籍校時の状況調査及び在籍している生徒の入学時から卒業時までの状況調査、入学時から卒業時までにどのようなアプローチを行ったか調査するとともに、生徒の状況とアプローチを類型化し、生徒全員の支援計画を作成するシステムを研究することにより、生徒個々に対してその強みを伸ばしていくことを目的とした指導計画を作成するシステム（仮称：キャリアガイドシステム）を構築する。
　このシステムによって作成された指導計画はWebにて本人、教員はもとより保護者とも共有するとともに、随時生徒本人と教員・保護者の関わりの中で更新していく。

生徒本人の状況にあった目標設定、教育環境の提供により
⇒　生徒個々に応じた対応
⇒　学習意欲の向上・継続
⇒　自己実現（次代を創る主体としての社会的自立）を実現する



【キャリアガイドシステム】
（個別支援プラン作成共有システム）
①生徒プロフィール（中学校もしくは前籍校状況含む）
②行動記録　③指導記録
④その他（必要に応じて心理検査結果など）
⇒指導目標の設定・指導計画の策定
⇒生徒の変化に応じて随時更新

キャリアガイドシステム
の構築

事業実績及び成果と課題

事業実績及び成果と課題

牧野　秀昭

本校では、入学前の受験相談に始まり、面接、入学前相談、そして入学してからも年間複数回の面談を繰り返しながら、生徒の良さを引き出し、また生徒自身が自分の可能性に気づけるよう関わり合いを深めてきた。面談内容は勉強面に限らず、趣味のことや、休日の過ごし方など多岐にわたり、本人がどんな時に幸せを感じているのか、何に興味を示しているのかを共有しあい、日常の関わり合いに役立ててきた。その情報は、進路の方向性や自立に向けたキャリア教育の土台であり、成長のあかしになるものであり、その意味で、本校の教職員は、個々の教職員が必ず聞くキーワードや、その後の指導に役立てる情報を引き出すプロフェッショナルとして面談に取り組んでいる。しかしながら、生徒の多様性の高まりとともに、一人の教員ではなくチームとしての面談力の向上が必須となり、年間沢山の研修が予定されている。

そこで、星槎国際高等学校全体として面談力を上げる仕組み作りが必要であり、今回の事業へ参加し、面談内容を整理し活用することで、生徒の良いところを可視化することで、教員間の共有情報のみならず、生徒自身が良いところを感じられるシステムの構築を目的とした。

１．　平成 27 年度

（１）取り組み

①星槎国際高等学校教諭が面談で確認している内容を確認

②基礎情報、アンケート用紙 A・B の作成

③Cloud 上にサイトを作成

④アンケートを使用し、基本情報及びアンケート内容の入力

⑤入力に関する教職員の負担減方策を検討

（２）成果、課題

①これまで星槎国際高等学校内でも、全国に学習センター（文科省認可の面接指導校舎として学則に記載）が 20 か所近く開設され、面談力の研修は行うものの学習センター差があったが、共通の様式を利用し、一定の確認内容が実施されることから、高校全体として面談力の向上が図れた。

②入力に関する教職員の負担減方策を検討

年度途中であり、面談終了後の追加業務になってしまったことから、入力母数が想定より伸びず、負担減の方策を検討した。

２．　平成 28 年度

（１）取り組み

①平成 27 年度取り組みに対する検証

②本校基幹システムより基礎情報の一括入力方式の導入

③各事業所における入力情報をサイト上で確認できる仕様にした。また、併せて、情報共有の目的で、掲示板やキャビネットなどを実装

④生徒によるログイン機能の実装

⑤④に加え、スマートフォンから直接入力機能実装

しかし、8 割以上の生徒が入力できない状況であった。具体的には、入力できない生徒のほとんどが、ブラウザ内にお気に入りのサイトが開かれている状況だったことから、アンケート内容が多くなりすぎ、スマートフォン側で適切な処理ができない状況で入力できないのでは、と推測される。

⑥アンケート画面の表示改修

３．　平成 29 年度

（１）取り組み

①平成 27 年度平成 28 年度取り組みに対する検証

②本校基幹システムから新入生基本データの一括入力および重複の解消

③個別面談用アウトプット資料の修正

④卒業生進路先情報の入力状況の整理

年度末に指導要録等の諸表簿作成時期が重なることからの負担を軽減する方策

＞基幹システムには指導要録が作成できる情報が蓄積されているため、年度切り替わりのタイミングで、基幹システムからの追記を検討

⑤全体データのアウトプット化実装

４．　データ（基本情報、アンケートＡ、アンケートＢ）より抜粋

（１）入学区分

新入	中学既卒	転入(1 年)	転入(2 年)	転入(3 年)	編入(1 年)	編入(2 年)	編入(3 年)	未記入
4901	247	726	749	281	188	88	31	696

（２）学校生活の充実度

アンケートＡ	
とても充実している	23.8　%
充実している	50.6　%
充実していない	11.4　%
未回答	14.1　%

⇒

アンケートＢ	
とても充実している	21.9　%
充実している	59.1　%
充実していない	14.1　%
未回答	4.9　%

（３）部活動の充実度

アンケートＡ	
充実している	23.0　％
充実していない	5.9　％
部活動をしていない	44.2　％
未回答	26.9　％

⇒

アンケートＢ	
充実している	28.7　％
充実していない	7.2　％
部活動をしていない	49.9　％
未回答	14.2　％

（４）友人関係について

アンケートＡ	
良好	36.7　％
ほぼ良好	33.1　％
悩んでいることがある	7.5　％
未回答	22.7　％

⇒

アンケートＢ	
良好	43.6　％
ほぼ良好	36.0　％
悩んでいることがある	6.4　％
未回答	13.9　％

（５）アルバイトについて

アンケートＡ	
している	25.5　％
以前していた	9.3　％
探している	8.7　％
していない	33.3　％
未回答	19.0　％

⇒

アンケートＢ	
している	32.0　％
以前していた	14.8　％
探している	6.8　％
していない	35.6　％
未回答	10.8　％

（６）進路希望

アンケートＡ	
進学希望	25.5　％
就職希望	9.3　％
探している	42.0　％
未回答	23.2　％

⇒

アンケートＢ	
進学希望	44.7　％
就職希望	18.6　％
未定	24.2　％
未回答	12.6　％

考　察

考察-1

高等学校通信制教育の展望

—反転授業への道—

新井郁男

高等学校における通信による教育は、アメリカ教育使節団の報告書が、後期中等教育について入学希望者の全員入学を制度化することを勧告したことも背景として、義務教育後の後期中等教育の機会拡大を図る趣旨で、1974（昭和 22）年に教育機会均等の理念を規定した教育基本法と同時に制定された学校教育法において「高等学校には、全日制の課程又は定時制の課程のほか、通信制の課程を置くことができる。」(第 45 条 1 項)、「高等学校には、通信制の課程のみを置くことができる。」(同条 2 項)と定められ、高等学校通信教育が制度化された。戦前の旧制度のもとでは正規の学校教育の中には組み入れられていなかったが、学校教育法の制定によって通信教育が高等学校の一形態として認められ、以来、種々の変遷を経て発展をしてきている。

1　制度的変遷

学校教育法制定の翌年「中等学校通信教育指導要領試案」が公布され、4 月に新学制発足し、5 月に高校通信教育規定が公布された。発足当初は、高等学校における教育方法としての通信を利用することは国語の一教科のみに限定されていた。通信教育用学習図書(通称、学習書)として、国語甲 I のみが文部省編として発行されている。また、通信教育のみでの卒業は認めず、生徒は定時制にも在籍（二重在籍）し、定時制課程において取得した単位と合わせて卒業できるというシステムであった。通信による教育は定時制課程の補助制度としてスタートしたのである。通信によって単位の取得ができる科目は、年々増えていった。実験・実習・実技などが伴う科目は容易には認められなかったが、1955（昭和 30）年 4 月の文部省次官通達「高等学校通信教育の実験科目の拡充ならびに同通信教育による卒業について」によって、通信教育のみによって高等学校を卒業することができるようになった。これによって、通信制課程は全日制課程、定時制課程と同等の地位を得ることとなった。また、この通達は、通信教育の実施校から遠距離に住む生徒に対して、面接授業の便宜を図るために、他の高等学校を協力校とすることも奨励し、これによって通信制課程の実施校と協力校という体系が一般化していった。翌昭和 31 年には、「高等学校通信教育規定」が施行された。

また、通信制課程で学ぶ生徒の学習に役立つことを目的としたラジオ番組が NHK で企

画され、1951（昭和 26）年に仙台で放送され、次いで、1953（昭和 28）年には全国放送が行われるようになった。そしてその成果をもとに 1957（昭和 32）年には、この番組を利用することにより面接授業時間が軽減されるようになった。この番組はその後テレビでも制作放送され、1960（昭和 35）年に番組利用による面接授業時間の軽減がテレビ番組にも適用されるようになった。

同年には、学校教育法の一部改正によって、定時制課程・通信制課程と技能教育施設との連携、広域の通信制課程の設置が認められることとなり、通信制高等学校が制度的（法的）に確立した。技能教育施設との連携は、通信制高等学校に在籍している生徒が他の技能訓練施設でも教育を受けている場合、学習の二重負担を解消するために、その施設における学習を高等学校の教科・科目の一部の履修とみなすことを可能にしたである。また、広域通信制は、一都道府県を超えた全国に及ぶ制度である。このことによって、放送利用を基盤とする通信制高等学校として、1963（昭和 38）年に NHK 学園高等学校が、1964（昭和 39）年に科学技術学園高等学校が発足している。

2　生徒層の多様化とその要因

通信制高等学校は、以上に考察したように、第 2 次大戦終了後間もなく 1948（昭和 23）年に発足して以来、さまざまな変遷を経ながら発展をしているが、それにともない数量的にも注目すべき展開をみせている。1955（昭和 30 年）には 70 校にすぎなかったものが 2016（平成 28）年には 242 校（うち、独立校 104 校）に、生徒数は 46,036 名から 181,031 名に増加している。高等学校全生徒数との比率では 1.7%から 5.4%に 3 倍になっている。

この量的発展によって、生徒の層も多様化してきている。当初はいわゆる勤労青少年が対象であったが、現在は、すでに働いている人だけでなく、高校を中退した人、学業不振という理由で現在の在籍校では卒業が困難な人、不登校で悩む人、発達障害により通常の学習が困難な人など多様である。芸能活動やアスリート活動と学業を両立させるために通信制高等学校を選択している生徒もいる。通信制を卒業して東京大学に入学した生徒もいる。

このように通信制が選択される理由は多様化しているが、一般的には、原因は選択者側にあると考えられている。選択者の不適応と考えられている。しかし、これからの学校教育のありかたを展望するにあたって肝心なことは、学校教育のシステムが学習者に適応していないと考えるべきであろう。学校教育は英語では schooling （スクーリング）といわれているように、一定の場所に集まって決められた時間枠にしたがって行う教育が基本となっている。すなわち、全員を同じペース、同じ方法で教えるのが現代の学校教育システムとなっているのである。そのシステムに適応できない者はスローラーナーといったレッテルを張られている。逆に、制度化された時間より短い時間で理解し、通常の授業はまどろっこしいと感じている生徒も少なくない。このように、現実には、生徒の学習のペース、学習スタイルなどには大きな個人差がある。これが通信制を選択する者が増える基本的な要因といってよいのではないか思われる。

３　通信制の展望

以上に考察したことから、現下の学校教育の課題は生徒の学力・理解度、学習スタイルなどの個人差にいかに対応するかということだと思われるが、通信制は個人差へ対応できる教育システムとして積極的にとらえることができるのではないだろうか。単に、遠隔教育（distance education）のシステムとしてとらえるのではなく、学習社会におけるシステムとして位置付けることができるのではないだろうか。

学習社会についてはさまざまな捉え方があるが、わが国では、1981（昭和 56）年に出された中央教育審議会の答申「生涯教育について」において、「人々の生涯を通ずる自己向上の努力を尊び、それを正当に評価する、いわゆる学習社会の方向を目指すことが望まれる」と提言している。通信制はこういう意味での学習社会の教育・学習システムに位置付けることができるであろう。

アメリカ合衆国においては、近年、家庭での学習と学校での教育・学習を逆転させる flipped learning とか flipped classroom と呼ばれる教育システムが発展しており、わが国でも、反転学習の呼称で佐賀県の武雄市で試行されているが、家庭での自主的学習と面接授業（スクーリング）を中核とした通信教育はまさに反転学習といえるのではないだろうか。

わが国では、目下、アクティブ・ラーニング、主体的・対話的学習という観点から学校教育の改善が行われようとしているが、現行のスクーリングのみを中心とした全日制、定時制では限界がある。全日制、定時制と併置するだけではなく、全日制、定時制においても通信制を導入するようなことを検討すべきではないかと思われる。

以上、通信制高等学校に関して、私見も含めて、一般論的に考察を行ったが、具体的に、注目すべき取組みを行っている学校は少なくなく、星槎国際高等学校はその中でも特筆すべき実践に取り組んでいる。

考察-2

推進事業該当法人･委員会の学習支援の傾向と国際高校の視点について

手島　純

「多様な学習を支援する高等学校の推進事業　採択事業一覧」（平成 29 年度）を閲覧すると、事業該当法人・委員改数は 20 である。その内訳を主に「調査研究課題名」に使われたキーワードをもとに分類すると「ＩＣＴ・遠隔教育」(7)、「 外部資源」(5)、「個別支援・相談」(8) となる（かっこ内は該当数)。「ＩＣＴ・遠隔教育」「外部資源」に関しては特定の支援ツールを明示しているもので、「個別支援・相談」に関してはツールというより、「個別支援・相談」そのものに対する推進ということである。

ただし、各事業は、ＩＣＴも使うし、外部資源も活用するし、遠隔教育でもあるので、各分野の明確な線引きはできない。それゆえ、何を強調しているかということに力点を置いた分類である。

「ＩＣＴ・遠隔教育」に関しては、中山間地域・離島・学校の小規模化など、地域の特性により遠隔教育をＩＣＴ（テレビ会議システム等）によって行う事業が推進されている。しかし、「ＩＣＴ・遠隔教育」は上述のような特別なことだけではなく、今後、少子化によって学校の統廃合が進むことが予測されているので、この事業は敷衍されていくだろう。

また、外部資源に関しては、スクールカウンセラー・進路アドバイザー・キャリアカウンセラー・ソーシャルワーカーなどの活用により生徒支援をめざし、校内だけではなく校外での相談センター化も企図されている。これも今後はさらに広がっていくだろう。付言するならば、外部資源の活用は教職員との連携が非常に大きなカギを握る。閉鎖的と言われる学校での外部資源の活用は、教職員とどのように連携できたか否かが大切である。

「個別支援・相談」事業に関しては、多岐にわたるので当国際高校も含めて概要をさらに要約して示したい。

①福井県教育委員会は、「通信制高校生徒の不登校状態を防ぐ支援体制の構築をめざして」ということで、不登校等経験が「自己の希望を実現させ、社会で自立していく力を身に付けさせるため」、「生徒情報交換会」「校内推進員会」「保護者のつどい」を充実させていく。

②徳島県教育委員会は、「『つなぐ』徳島プロジェクト～『支援・相談』でつなぐ生徒の未来～」ということで、「徳島県内の定時制･通信制課程で学ぶ全ての高校生が自己有用感を持ち、社会における自己の役割を自覚し、職業人として活躍できる人材として

成長するため」の支援・相談体制を確立するとある。具体的には「支援におけるルーブリック等評価方法の改善、外部機関との連携事例の共有等を行う」。

③学校法人科学技術学園は、「定時制・通信制高校が可能な学習支援の構築についての調査・研究」ということで、定時制課程では「学習意欲の回復を目的に、生徒１人ひとりの学習到達度に応じて指導体制を組み、通信制課程では「不登校傾向の生徒に対して生徒の学力にあった教材、特にレポートのレベルの複層化に取り組む」。

④学校法人太平洋学園は、「定時制・通信制課程における生徒の自立を促す支援・相談体制の構築～『自立支援プログラム』『地域連携プログラム』の作成と実践を通して～」ということで、「『地域連携プログラム』作成のために、さまざまな実践を行い、その成果や課題、改善点などを明らかにしていく」とあり、そのために様々な外部資源を有効利用する。

⑤学校法人日本放送協会学園高等学校は、「広域通信制高等学校における支援・相談体制の全国展開及び本校専攻科を活用した大学編入等を可能にする進路実現への取り組み」ということで、専門資格取得者の養成、保護者・地域に向けた学習会、地区学習センターまなびやのチーム支援力、ブリッジングなどを推進する。

⑥学校法人益田永島学園明誠高等学校は、「益田ソーシャルポート(都市と地方の教育ニーズをつなぐバイターン)事業」ということで、「家庭環境や心身の健康などの問題により、学校を含む社会生活において困難を抱えている生徒の自立や環境改善をめざすとともに、都市部と地方の問題を解決するために、生徒の居場所、相談所および寮（ソーシャルポート）を設置し、併せてファームステイ先を確保する」。

⑦学校法人八洲学園高等学校は、「支援を要する子どもたちに対しての就労支援の取り組み研究」ということで、「手帳を有さないがコミュニケーション能力の遅れがある子どもや小・中学校、高等学校において不登校経験者など」に対して、「どのような内容の学びや活動を提供・実施することが自立へ繋がるのかを複数の視点から検討し、PDCA サイクルを繰り返しおこなう」。

⑨国際学園は「通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究・開発」ということで、「調査研究校が全国に展開する学習センターにおいて、在籍する生徒に対して入学から卒業まで継続的に実施される各種面談の質問・対応項目を、専門家を加えた事業推進会議において精査・統合し、まとめられたアンケート（A、B）を基に面談の標準化を推進する」。

下線部は、概略のなかで特に対策的な箇所であり、こうした取組みの具現化が学習支援に結ぶつくことになる。これらはどれも重要なものであるが、さらにこのことが内部蓄積として生徒に還元されることが大切である。

国際学園に限って言えば、そのキャリアガイドシステムは、個別面談を通じた情報の蓄積に取り組んでいる。生徒個人は、学校生活において様々な現象を発する。しかし、その現象には背景があり、それを多角的に捉え、分析して、生徒支援に資する必要がある。多くの場合、個別面談はその面談者の資料として完結する場合が多いが、ここではそれをいわばカルテとして有効利用しようということである。もちろんそこには個人情報がしっかり守られるということが前提であって、そこのセキュリティ保障がないといけないわけである。

通信制高校において、個人を支援していこうとする考え方は、実はあまり見られないことであった。というのも通信制高校では、通信教育の方法（レポートや面接指導）に重きが置かれ、個々人のサポートは付随的であった。それゆえ、「来る者は拒まず、去る者は追わず」という結果に陥り、長く公立高校を中心として卒業率も低迷していた。

通信制高校の門を叩く者の多くは、不登校経験者であったり、高校中退者であったりすることが多く、やっとたどり着いた通信制高校でも卒業ができないという苦難に遭遇することも多かった。この状況はいいことではない。

その意味では「多様な学習を支援する」というコンセプトのもとで、生徒支援のさまざまなアイデアが取りあげられ、生徒支援が推進することが期待される。当国際学園の取り組みも今後の通信制高校を中心とした学習支援・生徒支援の輻輳となりうると考える。

考察-3

「わたし」をつくり続けるプラットフォーム

古壕　典洋

1. 当事者としての子ども

「ただひとつ確かなことは、確かなものは何もないということだ」。こんな言葉に象徴される社会に私たちは生きている。人間の想像力や予測を超えた社会に、である。未知の社会の到来は学習観の転換をもたらす。「コンテンツ」から「コンピテンシー」へ、個別具体的な知識・技能から領域横断的な汎用性のある資質・能力への転換である。

近年の学習指導要領の改訂作業では「育成すべき資質・能力の三つの柱」として、「生きて働く知識・技術の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」が提起されている。鍵概念は「主体的・対話的で深い学び」である。

いま求められているのは、「教師の自律性と協働性を統合した創造的な学校像」（水本 2017：399）であり、そこで必要なことは、子どもを「教育の目標や知識を構築する当事者」（同前書：399）として捉え直すこととされる。

2.〈生徒を／が知る〉こと

2.1　学びの基礎的な次元へ

「主体的・対話的で深い学び」は学びの〈内容－方法－行為〉の有機的な連携のなかで生まれる。それでは、子どもを教育の目標や知識を構築する当事者として位置づけるときに、大切なことは何か。答えは単純である。それは、「知る」ということである。

何かを行うときには、必ずその対象を知る／知っていることが前提となる。とりわけ、人の発達や成長を対象とする教育という営みであれば尚更である。当然、学びの〈内容－方法－行為〉は知ることを前提にしており、知ることを看過すれば〈内容－方法－行為〉は機能不全に陥る。けれども、知るの次元はなぜか無視されてしまう。知ることは、勝手に身に付くような自然現象では決してないにもかかわらず。したがって、子どもを当事者として定位する際にまず問うべきは、知るという学びの基礎的な次元なのである。

2.2　多彩な視点

この「知る」には二重の意味がある。1つは、教師（や学校関係者）が「生徒を知る」こと、もう1つは、「生徒が自らを知る」ことである。ここに「キャリアガイドシステム」（以下システムと記す）の意義がある。このシステムは、①生徒プロフィール、②行動記録、③指導記録、④その他により構築されたもので、生徒の指導目標の設定や指導計

画の策定に活用されるものである。しかしその意義を、生徒個人の情報をまとめた膨大なデータベースの構築にある、と狭隘に理解してはならない。その意義は、システムの構築の「過程」と完成した「結果」の両方にあるからである。

さて、知ることの半面は教師が生徒を知ることである。なにを当たり前のことを言っているのか、と思われるだろう。教師は当然生徒のことを知っているし、だから授業や指導を行えるのだと。それでは、こう問うてみたらどうか。知るの言明―「私は○○さんのことを知っている」と発言できる―を保証するものとして、教師の主観的な認識以外に、生徒を客観的に目に見えるかたちで知ることができるものはあるのか。おそらく、答えはノーではないか。教師が生徒のプロフィールから行動・指導記録に至るまでの、生徒の総体を把握する媒体を有していることは稀ではないだろうか。これは、教師それぞれがもつ主観的な認識を否定しているのではなく、むしろそれを活かすためにこそ客観的に情報を示す媒体が必要であること意味している。

人は自分の見たいものしか見ようとしない。原理的に、部分は全体を把握できない。生徒一人ひとりは多面性を有しているにもかかわらず、教師はある視点からしか生徒を見ることはできず、しかも生徒の一部しか把握できない。それゆえ、生徒の全体に迫るためには、生徒を把握する視点を多様にして重ね合わせていくほかない。

それゆえの、システムである。システムは教師の他に生徒本人も入力することで作られる、各教師の視点と生徒本人の視点との複合物である。またそれは生徒の保護者にも共有される。つまりシステムは、生徒と学校と保護者の三者の多彩な視点によって、生徒の情報が可視化され集積されることで構築される。生徒の多様な実態はシステムを通して把握され、そのシステムの中身は生徒の実態の変化に応じて更新され続ける。

2.3 「わたし」をつくる

多彩な視点によって構築されるシステムは、生徒を知ることを可能にする。このシステムの構築や更新の過程は「生徒が自らを知る」機会でもある。システムは教師や生徒本人が入力し、教師が生徒と面談するなかで構築・更新される。例えば面談の場面。生徒は自らの過去―生育・教育歴―や現在―学校・家庭生活・幸福感―、そして未来―進路―を教師に語る。この自らを語るという行為は何を意味するのか。

過去を語ることは、完結した出来事を再現することではなく、語り手が自らの時間のなかに過ぎ去った出来事を組み込み意味づけることで、語り手自身が過去を生き直すことである―だから語る度に、過去の出来事の意味は変わる―。そして、未来を語ることは、未知の出来事のなかに想像的に身を置くことで、希望を紡ぐことである。

生徒は語ることで過去を生き直し希望を紡ぐ。それは、語ることで「わたし」を再構築することでもある。ここに学びの原点がある。学びとは、よくなろうとする思いのなかで自らを変身させる行為であり、「希望の次元に生きること」（佐伯 1995：9）だからである。そして精神分析の知見が示すように、自己の形成には他者の存在が不可欠である。語

られる内容は聞き手のふるまい―表情やしぐさ―に影響を受ける、正確に言えば、語りはその場と文脈を背景にして、語り手と聞き手とのあいだに生まれるものだからである。

生徒は語ることで伴走する教師とのあいだに「わたし」をつくる。そこで生まれた語りは、教師により記録されシステムへと登録されることで情報へと変換され、他の教師や保護者へと開かれ共有・更新される。この更新されたシステムを基に指導や面談が行われ、そしてまた生徒は語りを通して新たな「わたし」の構築へと向かう。

〈生徒を／が知る〉にはこのようなダイナミズムがあり、この運動はシステムによって駆動されている。つまりシステムは、多彩な視点に基づくコミュニケーションを生み出すことで、「わたし」をつくり続けるプラットフォームとして機能するのである。

3. 異質な存在

このシステムは高校教育にいかなる影響を及ぼし得るのか。それは、星槎国際高校という場で実践されたことに関係している。ここで考察の補助線として、現在の高校教育を 3 つに分類した〈図 1 高校教育の類型化〉を導入しよう。星槎国際高校―通信の方法を用いた通学型の「全日・定時制」ではない高校―は「通学型通信制」に位置づく。

ある対象の全体を把握する場合、それに内在・外在の双方の視点が必要となる。それでは高校教育はどうか。じつは、高校教育の双方の視点を体現しているのが、通学型通信制＝星槎国際高校である。高校教育にとって通学型通信制は、学校教育法に内在しつつも、他方で「通学」を学びの原理的な前提としない点―生徒の自由選択―で外在しているからである。それだけではない。さらなる理由は「通学型通信制」という名辞矛盾―通わなければならない／なくてもよいは二律背反！―にある。どういうことか。

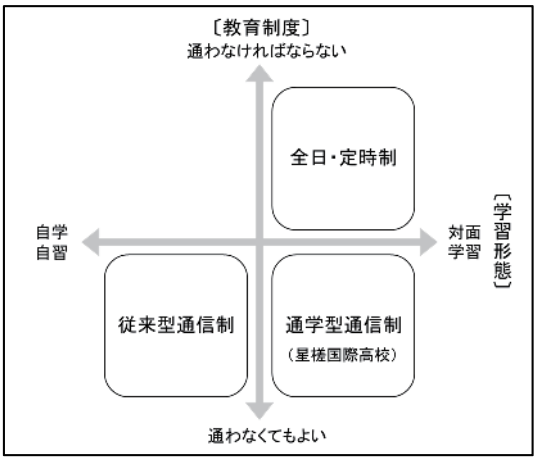


図 1 高校教育の類型化（古壕 2016 に加筆し作成）

この名辞矛盾は、生徒は多種多様に学んでいるにもかかわらず、その学びを同定する相を「通わなければならない／なくてもよい」を用いて「通学型通信制」と形容せざるを得ない現状を意味している。つまり、高校教育の構造的問題が通学型通信制に象徴的に現れ

ているのである。このように、通学型通信制は高校教育の全体の視点を有しており、それはまた、図の一部＝高校教育に内在しつつも図自体＝高校教育の構造自体を書き換える可能性を秘めている。通学型通信制＝星槎国際高校とは、いわば異質な存在である。

異質な存在の異質さは、既存の自明性を揺さぶるその潜勢力にある。例えばそれが、知ることの顕在化―問いの前提から対象への転換―であった。星槎国際高校でのシステム構築の実践は、学級の同質性や自学自習に基づく教育で看過されがちな、学びの基礎的な次元に再び光を当てる。子どもを当事者として定位する前提に、あるいは学びの〈内容－方法－行為〉の基底には、多層的な〈生徒を／が知る〉を通した「わたし」をつくり続けるダイナミズムがあることを、「キャリアガイドシステム」は教えてくれる。

「キャリアガイドシステム」は私たちを学びの原点へと回帰させるのである。

＜参考文献＞

古壕典洋，2016，「おわりに」（特集 高校通信教育）『平成 27 年度 日本通信教育学会 研究論集』pp. 82-85.

佐伯胖，1995，『「学ぶ」ということの意味―子どもと教育』岩波書店.

水本徳明，2017，「学習観の転換と経営管理主義の行方―公教育経営における権力様式に関する言語行為論的検討」『教育学研究』第 84 巻第 4 号，pp. 398-409.

考察-4

臨床心理学からの考察

西永　堅

１．不登校支援の視点から

学校法人国際学園星槎国際高校は、1999 年 4 月に開校した、学習障害があるとされる生徒を積極的に受け入れることを特徴とした広域通信制高校である。また、不登校経験のある生徒もその対象生徒であり、障害のあるなしではなく、一人ひとりのニーズに応じた教育を目指している。

さて、文部科学省不登校に関する調査研究協力者会議による、不登校児童生徒への支援に関する最終報告(2016)においては、「不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を「問題行動」と判断してはいけない」とされ、そのために、不登校の原因を児童生徒にあるという偏見を払拭し、「学校・家庭・社会が不登校児童生徒に寄り添い共感的理解と受容の姿勢を持つこと」が重要であると述べられている。また、不登校の原因は、いじめなどの対人関係よりも、不安など情緒的混乱、無気力が最も多くなっており、そのため、登校支援や家庭訪問などの登校に向けた積極的な働き掛けが有効であり、「心の悩みについての相談」や「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導」を受けたかったとの回答が多く、心理的な支援等を求めている生徒が多いことが指摘されている。

また、同じく不登校児童生徒への支援に関する最終報告(2016)では、学習支援の視点の重要性を述べ、「学校・教育関係者は、すべての児童生徒が、学校に自己を発揮できる場があると感じ、自分と異なる多様な特性を受容し合えるような集団づくりを通して、楽しく、安心して通うことができるよう、学校教育の一層の充実のための取組を展開していくことが重要」としている。そして、例として、「無気力型」に対しては、「達成感や充実感を繰り返し味わうことで自己有能感・自己肯定感を高めることが登校につながる」、「遊び・非行型」には、決まり事を守らせるなど毅然とした教育的な指導、規則的な生活リズムを身につける、学ぶことへの興味を持たせる、「人間関係型」には、人間関係のトラブを解消することなど例をあげている。

これらの背景のもと、不登校児童生徒への支援に関する最終報告(2016)では、不登校児童生徒に対する支援における重点方策として、困難を抱える児童生徒には、「児童生徒理解・教育支援シート」などの個々の児童生徒に合った支援計画を策定し、組織的・計画的な支援を実施することの必要性を指摘している。

以上のような文部科学省が推奨する不登校支援において、本キャリアガイドシステムは、それらを満たすものであると考えられる。本キャリアガイドシステムは、生徒一人ひとりの

ニーズとストレングスをアセスメントした結果による個別の指導計画である。不登校の原因の多くは不安や無気力である。そしてその不安の原因は、自分の予測と結果とのディスクレパンシーであると考えられる。たとえば、自分が何をすればいいかがわかれば、不安を感じずに安心して行動ができるが、初めての環境や、まわりに自分の理解者がいない場合、どのような行動をとればいいのかがわからず、強いストレスと不安を感じ、緊張状態になると考えられる。強いストレス状態や不安状態が続けば無気力状態になるとも考えられ、学校は何よりも、子どもの興味や関心、得意なこと、苦手なこと、将来の夢、などを把握することが、子どもの不安を解消させる近道であると考えられる。日本の教育システムは、年齢主義・履修主義であり、年齢でカリキュラムが決まっている。身長の発達をみても、小学校２年生で小学校３年生の平均より高い児童や、小学校１年生の平均よりも低い児童がいるように、認知発達も個人差が大きいのにも関わらず、その個人差を前提に教育が行われていなければ、本人の発達に合わない課題をつねに出されている児童・生徒にとっては、学校は不安の原因となり、それが続けば、無気力となり、不登校が選択される可能性は低くないと考えられる。したがって、個人の発達を考慮した個別の指導計画は、障害のあるなしにかかわらず、教育的なニーズに応じて最重要であると言える。

また、児童生徒の良き理解者が担任の教員だけでは不十分なことが多い。先生によって、対応が異なれば、ある先生にはいいと言われたことが、ある先生には叱られたというダブルバインドな事象があったときに、児童生徒は強く不安を感じることが考えられる。中１ギャップと言われるが、中学校に入り教科担任制になることで、生徒が不安を感じるのも、それが一つの原因ではないだろうか。

したがって、そのためにも、教員間の生徒対応への共通理解は重要であると考えられる。本キャリアガイドシステムは、生徒との面接や日々の生活などの特記事項を、教員間だけではなく、生徒自身とも共有できることが最大の特徴でもあると考えられる。これは、病院におけるカルテとも考えられる。担当医が代わるごとに病状を説明しなければならないのは患者にとって強いストレスになるし、非合理的であると考えられよう。そして、学業の成績だけではなく、生徒の趣味や夢を理解する教員が多ければ多いほど、生徒は安心して通学できると考えられる。

２．課題

本キャリアガイドシステムの課題として以下のものが指摘できる。まずは、プライバシーの問題である。ネットワーク上における管理は諸刃の剣であり、広域通信制においては、学習センターは全国にあり、紙ベースの資料で情報を共有することの非合理性は指摘できる。その一方で、ネットワークで共有されるということは、常に外部からの不正アクセスのリスクがあることは認識しておかなければならない。本システムはワンタイムパスワード方式を用いており、登録されたメールアドレスに、１回限定のパスワードが送られることによってログインすることができるシステムとなっている。また、ユーザー権限も細かく限定されておりセキュリティ対策を行っている。ネットワークセキュリティへの啓発活動も今後と

も継続していく必要性がある。

つぎに、本キャリアガイドシステムへの教職員・生徒の積極的参加の推進である。学校教員の繁忙さは、公立・私立を問わず社会問題になっている。このようなシステムは、本来教員の仕事を効率化させ、質の高い生徒支援へのツールになるはずだが、その導入の壁は予想以上に高いものとなる。新しい行動を学習するためには、それ相応の対価がなければ、なかなか難しい。現在、SNS 上では、「いいね」と呼ばれる他者による承認が SNS 活動を継続する原因になる。その一方で、メッセンジャーソフトの既読スルーのように、返事や反応がないことが不安の原因になったりする。応用行動分析学においては、正の強化と呼ばれるが、新しいシステムが使われつづけるためには、新しいシステムを使うという行動に対して、ポジティブなフィードバックを検討されることが必要であると考える。例えば、このシステムを使うことによって、生徒との関係が改善されることが、もっとも理想的なフィードバックになるのであるが、それでは長期の時間がかかるので、教員や生徒がログインした人数や時間のフィードバックがされれば、他の人も使っているシステムだということが共有されるのではないかと考えられる。

引用文献

文部科学省不登校に関する調査研究協力者会議（2016） 不登校児童生徒への支援に関する最終報告 ～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm

資　料

通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究･開発にあたって

株式会社オープンソース・ワークショップ　代表取締役　永原　篤

1.　はじめに

本項では、星槎国際高等学校の「通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究･開発」(※ 以下、キャリアガイドシステムと記載) のコンピュータシステム開発、運用サポートにあたり検討、実施、検証した以下の点をシステム開発者、及び情報共有システムの専門家としての立場から説明します。

- 業務の整理と情報の蓄積
- データ収集のために
- データの分析、活用
- システム環境

2.　業務の整理と情報の蓄積

キャリアガイドシステムでは、生徒に対して入学から卒業まで継続的に実施される各種面談の質問・対応項目をコンピュータシステムに記録していく作業が必要になります。

ここで問題になったこととして、学習センターを複数持つ、広域通信制高等学校としての特徴がありました。

面談の質問･対応の手順などが、学習センター毎に実情に合わせて運用されている部分があり、画一的な手順でしか運用できないシステムでは、現場に即さない、という問題がありました。

そのため、キャリアガイドシステムは、以下の点に留意したものとなっています。

- 生徒の基礎情報を元に、面談の記録を随時、追加できること。
- 面談の記録は、回答を得られた項目のみでも登録できること。
- 後のデータ活用のために、質問項目毎にデータを管理できるようにしておくこと。

これらを反映したシステムにし、情報を蓄積しています。

3.　データ収集のために

キャリアガイドシステムでは、精度の高い分析や課題の抽出のために、データの登録が不可欠になっています。しかし、現場の教職員の作業時間の問題もあります。

そこで、登録したデータは分析や集計だけではなく、面談等に使いやすいシートフォーマットで印刷できる機能や面談記録データの登録も、教員が行うのではなく、生徒自らアンケ

ートとして入力できる機能を用意するなど、現場で使っていただくための機能を意識した作りとしています。

4. データの分析、活用

データが蓄積されることで、様々な形での抽出が可能となります。

システムとしては、データを構造化して保持することで、調査研究への資料の提供という役割を担うことができました。

5. システム環境

当システムでは、個人情報、さらに面談結果やアンケート結果などを保持するシステムとなるため、セキュリティについては、特に慎重に構築を行いました。

サーバメンテナンス時の接続などは、接続に電子鍵を用いるなど、不正なサーバへの侵入を防いでいます。

【サーバセキュリティ環境】

キャリアガイドシステムは管理者権限でログインする場合は、必ずワンタイムパスワードの要求が必要な認証方式を採用するなど、データに対する守りを行っています。

キャリアガイドシステム

ユーザマニュアル

【目次】

I. はじめに 2
1. この資料について 2
2. システムソフトウェアについての説明 2
3. 更新履歴 2
II. キャリアガイド画面遷移図 3
III. 閲覧権限について 4
IV. キャリアガイドログイン 5
1. ワンタイムパスワードでのログイン（教員） 5
2. ID パスワードでのログイン（生徒） 7
V. キャリアガイド作成 8
1. 生徒の基礎情報作成 8
2. 生徒の基礎情報の閲覧・編集（教員） 9
3. 生徒の基礎情報の閲覧・編集（生徒） 10
4. 生徒の基礎情報の削除 12
5. アンケートの作成 13
6. アンケートの閲覧・編集 15
7. アンケートの削除 16
VI. 基礎情報 CSV アップロード 17
VII. 会員登録 18
VIII. 補助資料（キャリアガイドシステムの流れ） 23
Ⅸ. お問合せ 27
1. メール 27
2. Web サイト 27

Ⅰ. はじめに

1. この資料について

この資料は「星槎国際高等学校様向け　キャリアガイドシステム　ユーザマニュアル」です。

2. システムソフトウェアについての説明

以下、使用するソフトウェアのバージョンについて定義します。

- NetCommons (2.4.2.1)

以下、運用環境の OS 関係です。

- CentOS 6、もしくは 7

その他の OS について
当システムは NetCommons をベースとした WEB システムです。
そのため、Linux、Windows 系の OS で動作します。

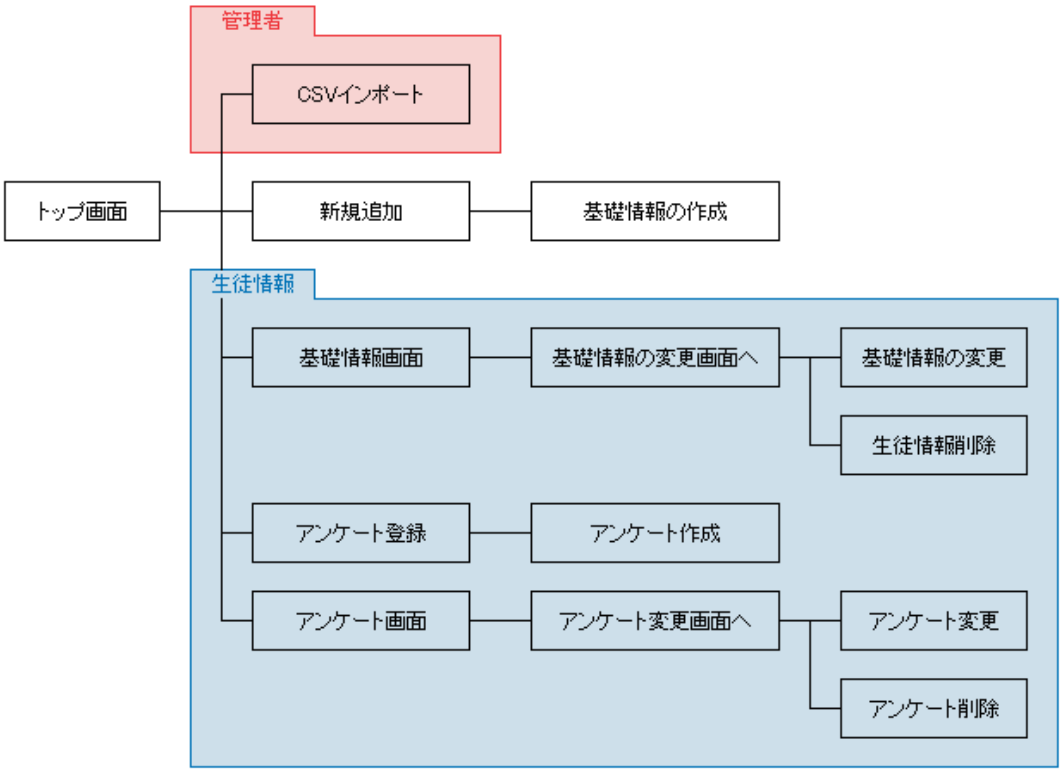
※ NetCommons は[大学共同利用機関]情報・システム研究機構の登録商標です。

3. 更新履歴

2016-03-08：初版
2017-02-01：改定

Ⅱ．キャリアガイド画面遷移図

キャリアガイドシステムでは以下の画面構成になっています。



Ⅲ．閲覧権限について

登録するモデレータ権限の教員は、所属している管轄の生徒情報のみ閲覧・編集・削除ができます。

教員は自分で管轄を変更することはできません。
所属する管轄は管理者のみ設定することができます。

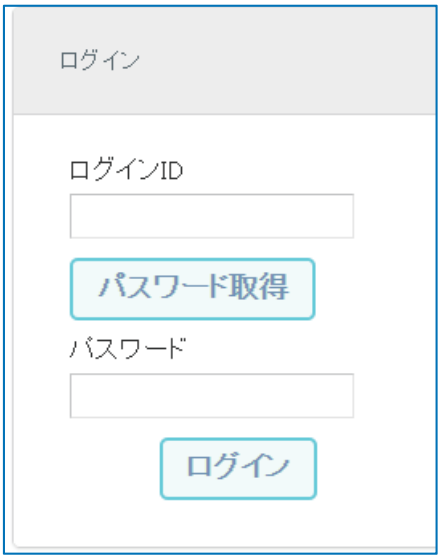
Ⅳ. キャリアガイドログイン

1.　ワンタイムパスワードでのログイン（教員）

各センターの教員がログインする場合は、教員ログインはこちらリンクを押下、もしくは教員用ログインページへ遷移します。

以下が教員ログインの画面の一部になります。
ログイン ID を入力後、パスワード取得ボタンを押します。

パスワード取得ボタンを押すと、パスワードがメールで送られ、パスワード入力とログインボタンが表示されます。



送付されたパスワードを入力してログインしてください。

※注意点
ユーザ情報にメールの設定がない場合はログインできなくなります。
万一、ログインできなくなった場合は、管理者に連絡してください。

2.　ID パスワードでのログイン（生徒）

生徒がログインする場合は、事前に管理者が生徒のログイン情報を NetCommons に登録しておきます。

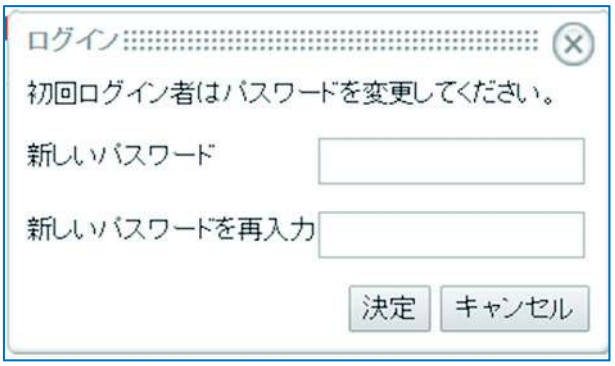
※会員登録項目を参照

※2016 年 12 月時点の生徒情報は取込済

画面上部のログインボタンを押下します。

ログイン ID（学籍番号）、配布済み初期パスワードを入力します。

生徒（一般権限）での初回ログイン時には、下記のパスワード変更画面が表示されます。



※変更パスワードには半角英数字それぞれ 1 種類以上含む 8 文字以上で入力してください

初回パスワード変更後は上記のパスワード変更画面は表示されなくなり、
変更したパスワードでのログインとなります。

Ⅴ．キャリアガイド作成

1.　生徒の基礎情報作成

※モデレータ（教員）以上の権限の会員のみ可能です。

①ログイン後、キャリアガイドページの「＋新規追加」をクリックして下さい。

生徒の基礎情報入力画面になります。

②生徒の基礎情報を入力して下さい。

「*」印は必須入力項目です。

入力が終了したら、画面下部の「基礎情報の作成」ボタンをクリックして下さい。

新規で生徒情報が作成されたことを確認して下さい。

2.　生徒の基礎情報の閲覧・編集（教員）

①作成された行の「[基礎情報]」より登録された基礎情報の閲覧、編集をすることができます。

閲覧用の画面になります。

②登録内容を変更したら画面下部の「基礎情報の変更画面へ」より基礎情報の変更ができます。

変更が完了したら、「基礎情報の変更」ボタンをクリックします。

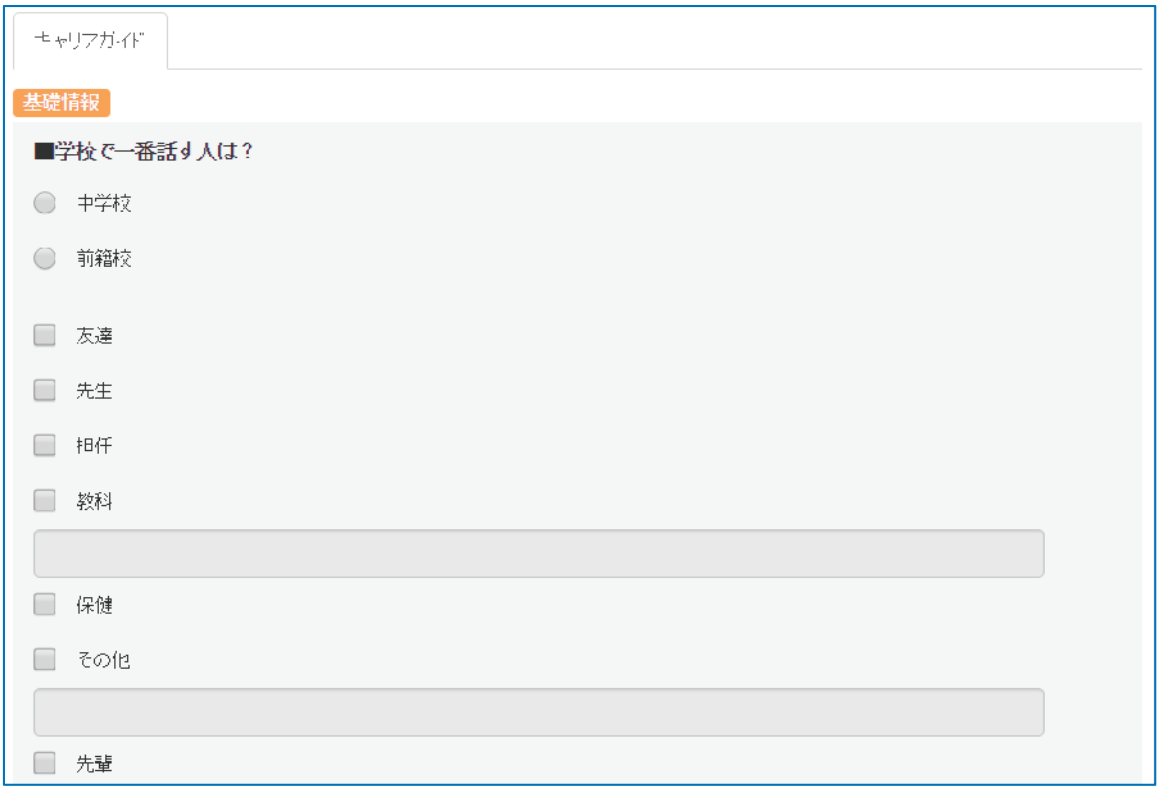
3. 生徒の基礎情報の閲覧・編集（生徒）

①[基礎情報]より登録された基礎情報の閲覧、編集をすることができます。

閲覧用の画面になります。

②登録内容を変更したら画面下部の「基礎情報の変更画面へ」より基礎情報の変更ができます。

※生徒が編集できる内容は限定されています



変更が完了したら、「基礎情報の変更」ボタンをクリックします。

4.　生徒の基礎情報の削除

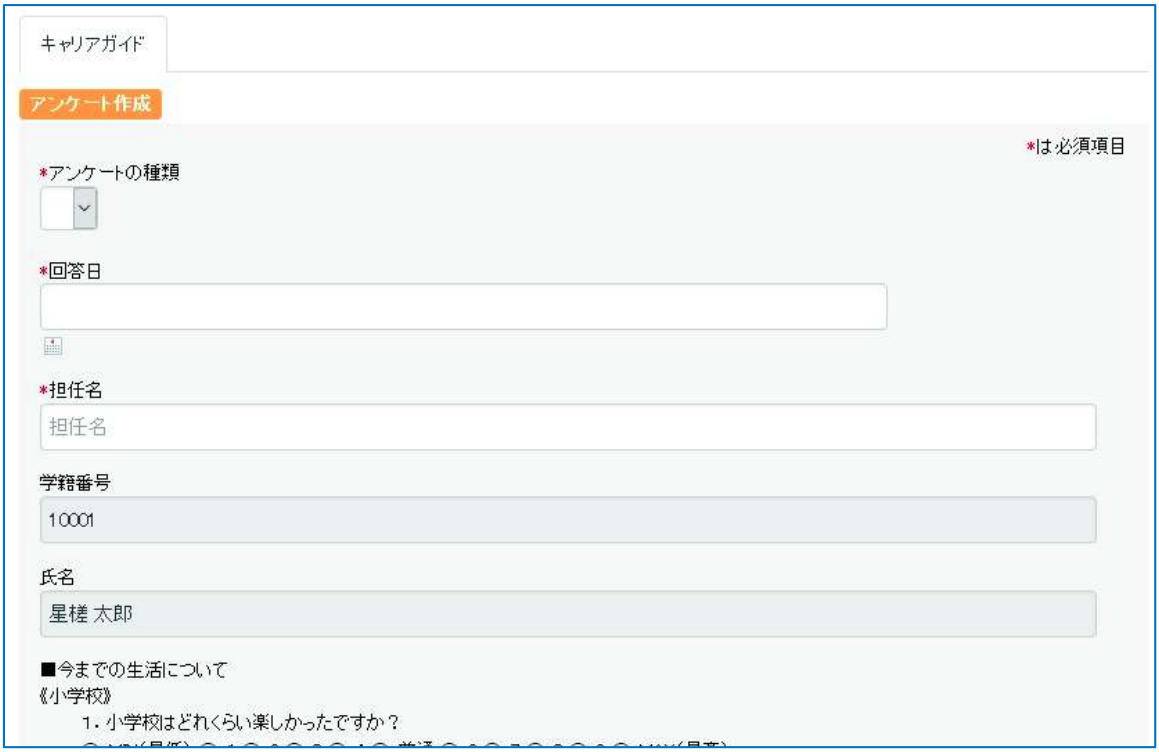
基礎情報変更画面下部の「生徒情報削除」ボタンを押すことでその生徒の基礎情報・アンケート全て削除することができます。

※アンケートも含め、その生徒の登録した内容が削除されてしまうのでご注意下さい。

5.　アンケートの作成

①「[アンケート登録]」よりアンケートを入力します。
「*」印は必須入力項目です。

アンケート入力画面になります。



②アンケートＡまたはＢを選択してから入力して下さい。
アンケートＡは１生徒に付き１件までしか登録できません。
アンケートＢは複数登録することが出来ます。

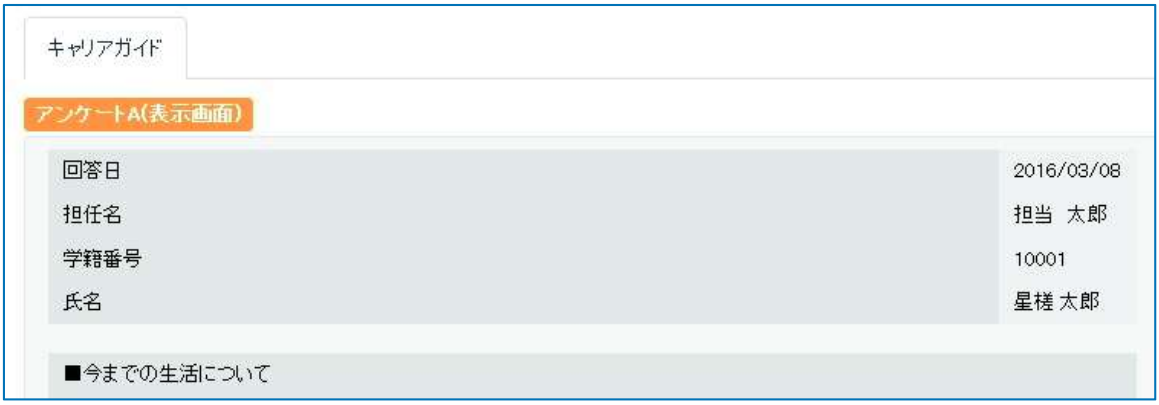
入力が終了したら、画面下部の「アンケート作成」ボタンをクリックして下さい。

登録したアンケートが表示されます。

6.　アンケートの閲覧・編集

①アンケート一覧より登録されたアンケートの閲覧、編集をすることができます。

閲覧用の画面になります。



②登録内容を変更したら画面下部の「アンケートの変更画面へ」より基礎情報の変更ができます。

変更が完了したら、「アンケート変更」ボタンをクリックします。

7.　アンケートの削除

基礎情報変更画面下部の「アンケート削除」ボタンを押すことで閲覧している生徒のアンケートのみを削除することができます。

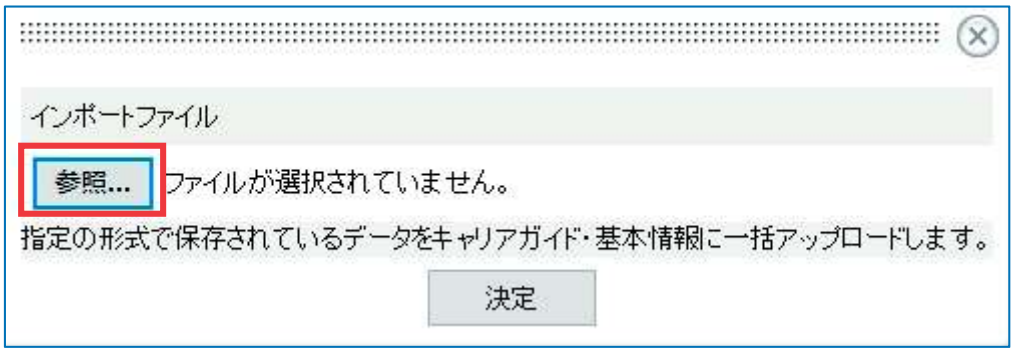
Ⅵ. 基礎情報 CSV アップロード

生徒の基礎情報を CSV で一括して登録することが出来ます。
※管理者のみ表示されます。

インポートできる項目は以下の通りです。

・学籍番号
・管轄
・性別
・名字
・名前
・名字（かな）
・名前（かな）

「参照...」ボタンをクリックし、作成した CSV ファイルを指定します。



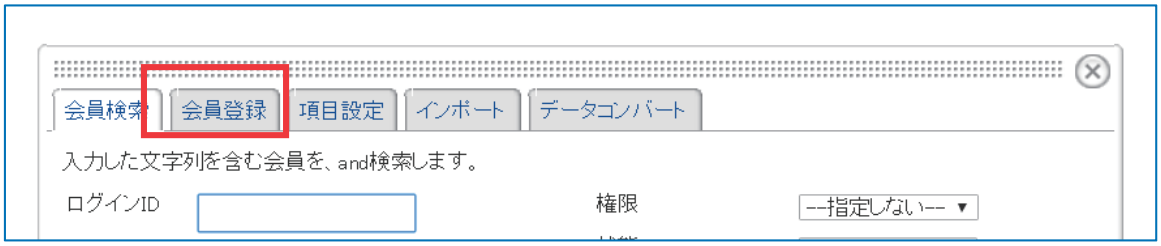
Ⅶ. 会員登録

管理者権限でログインします。

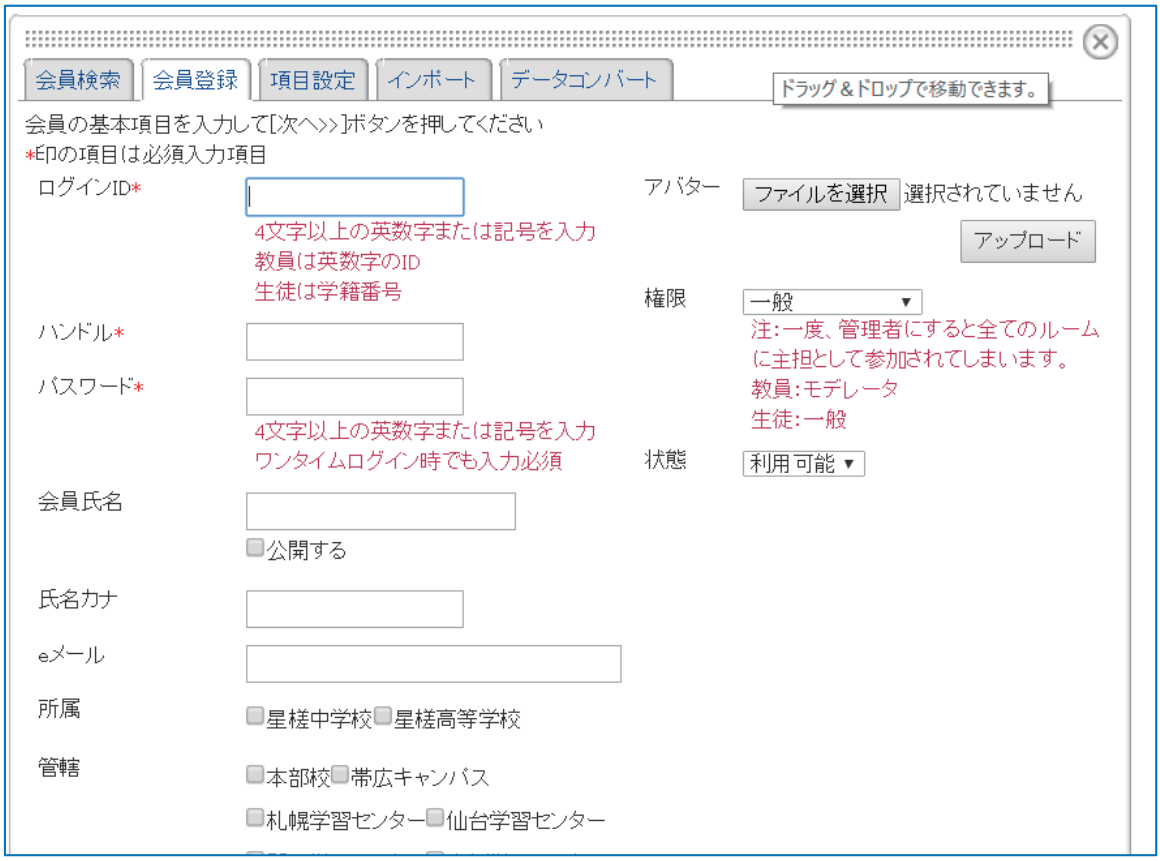
ログイン後、管理リンクを押下し、管理画面へ遷移します。

管理画面へ遷移後、会員管理を押下します。

ポップアップが表示されたら、会員登録タブを押下します。



会員登録タブが表示されたら、各項目を入力していきます。



＊の付いている項目は必須入力となります。

ログイン ID：

教員は t_seisa のような英字（英数字または記号）で入力してください。

生徒は学籍番号（数値のみ）を入力してください。

ハンドル：

教員は氏名を入力してください。

生徒は学籍番号を入力してください。

パスワード：

教員はワンタイムパスワードですが、ダミーでパスワードを登録する必要があります。

生徒はランダム数値 6 桁などのパスワードを入力してください。

e メール：

教員はメールアドレスを登録してください。ワンタイムパスワードが送付されるアドレスになります。

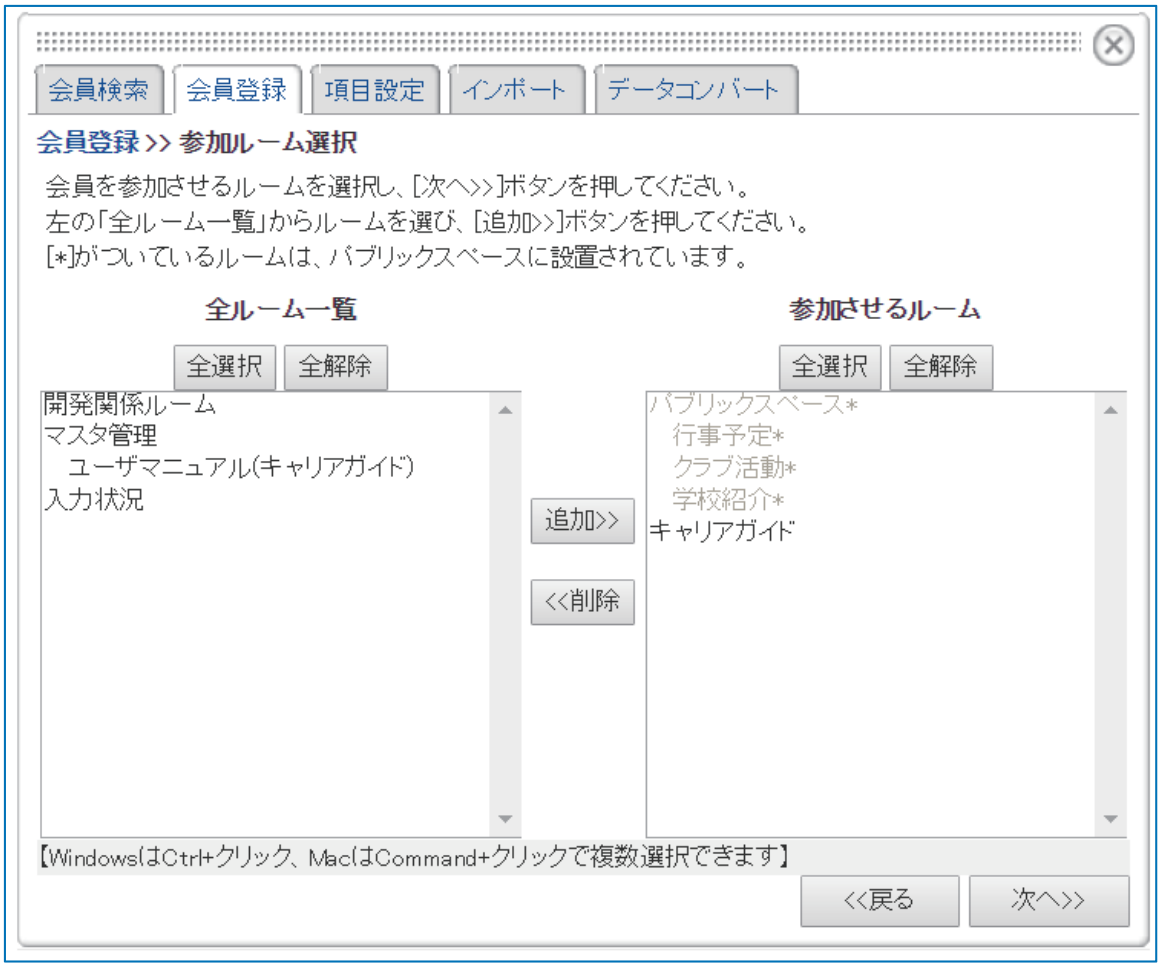
権限：

教員はモデレータを選択してください。

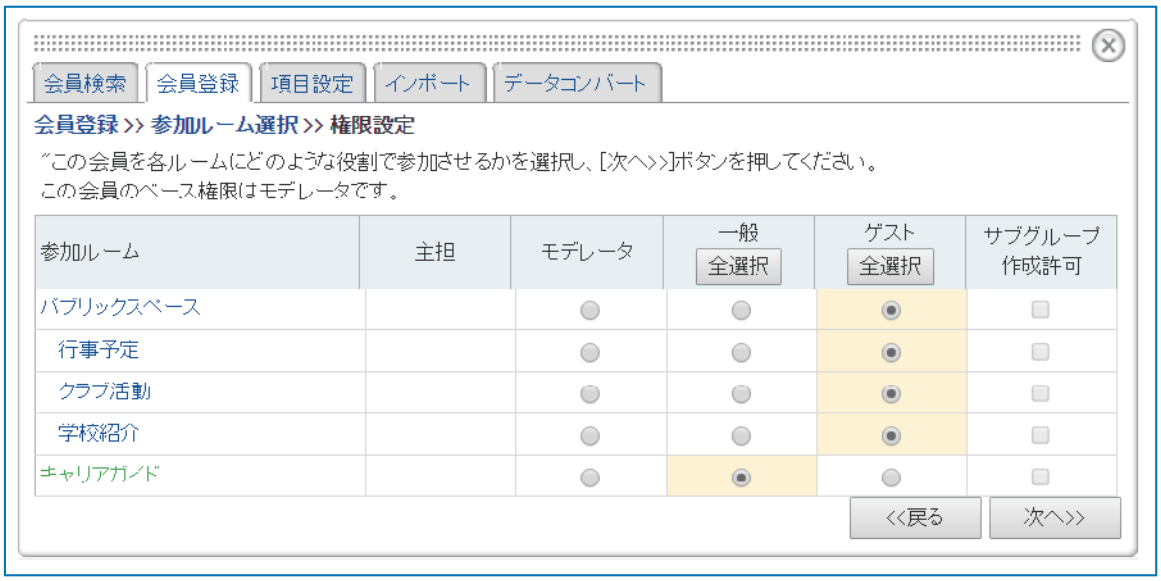
生徒は一般を選択してください。

入力が完了したら画面下部、次へボタンを押下してください。

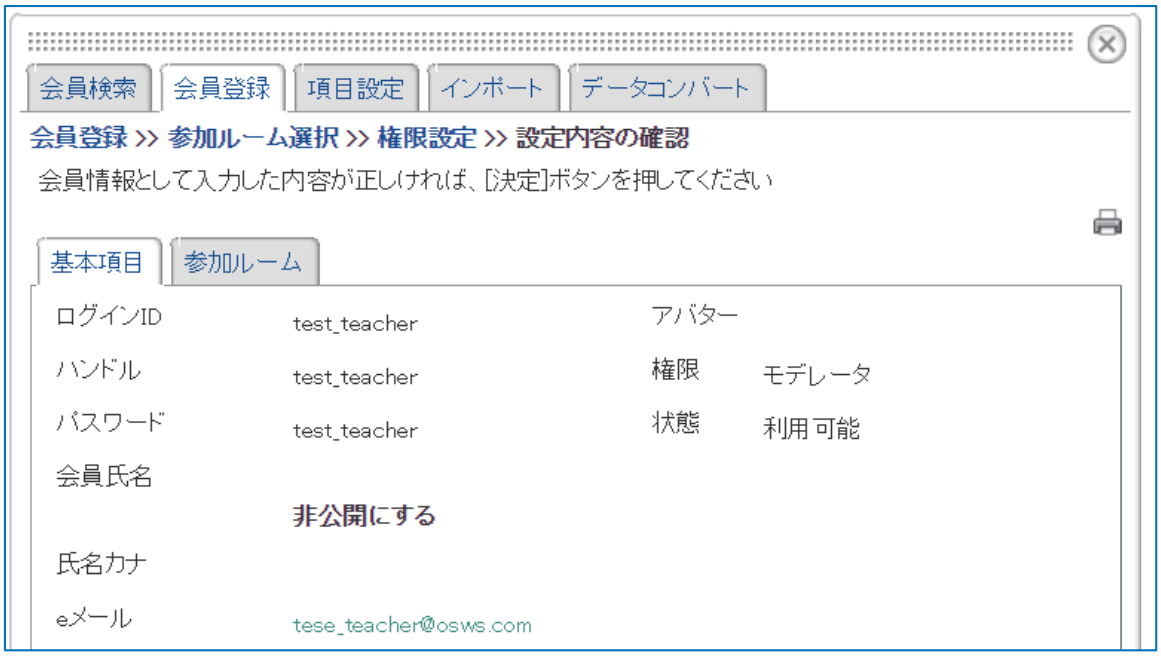
参加ルーム選択画面が表示されたら、参加させたいルームを選択し、次へボタンを押下します。



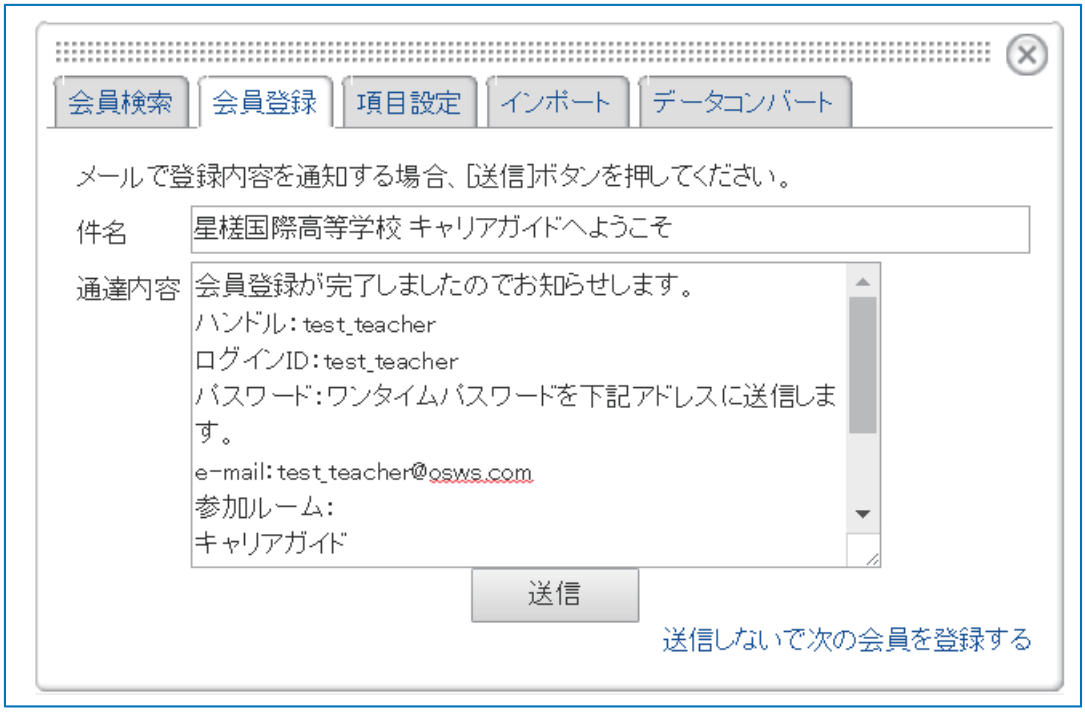
参加ルーム選択画面が表示されたら、各ルームの権限を設定し、次へボタンを押下します。



設定内容確認画面が表示され、問題なければ決定ボタンを押下します。



e メールアドレスが入力されている場合は下記の画面が表示されます。
登録メールを送信する場合は、送信ボタンを押下します。
送信しない場合は、送信しないで次の会員を登録するリンクを押下します。



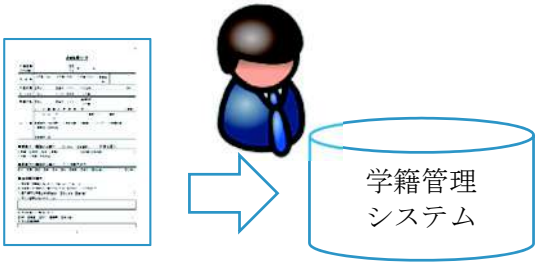
以上で NetCommons 上の会員登録は完了です。

Ⅷ. 補助資料（キャリアガイドシステムの流れ）

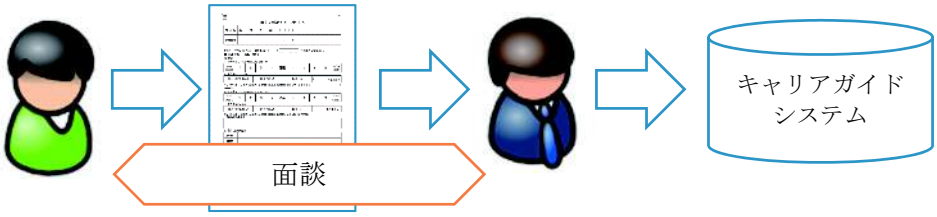
1. 面談などの流れ（当初の予定）

【入学前】

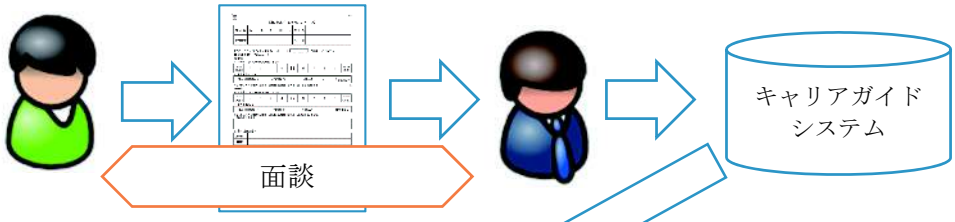
【入学決定】
基礎情報シートに学籍番号記入、
学籍管理システムにも保存



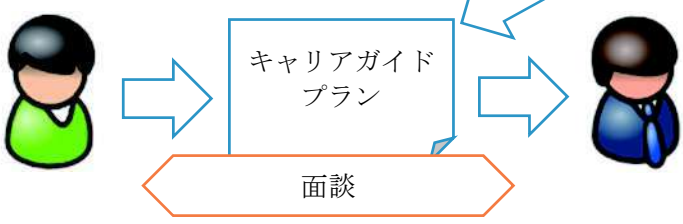
【1 年生の年度初め or 転編入生個別面談】
自分を知るためのアンケートＡを事前配布、記入後に面談



【年に一回の年度初めアンケートＡ経験者の個別面談】
自分を知るためのアンケートＢを事前配布、記入後に面談



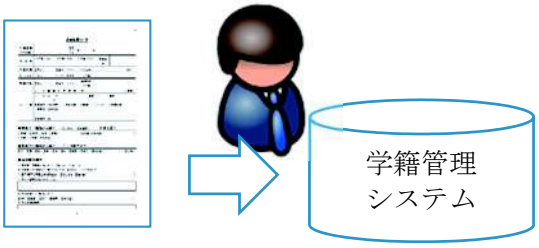
【年に複数行う面談】



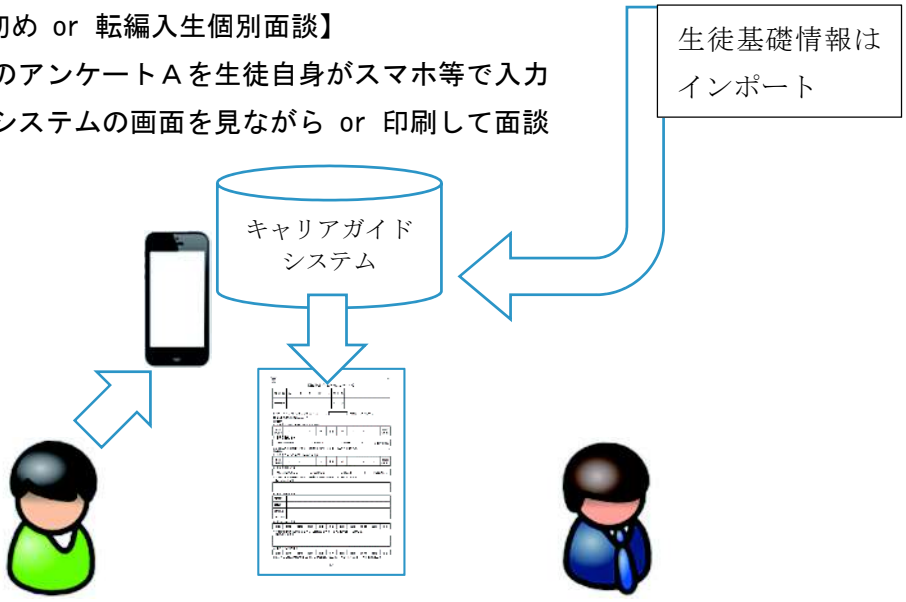
2.　面談などの流れ（改善案）

【入学前】

【入学決定】
基礎情報シートに学籍番号記入、
学籍管理システムにも保存

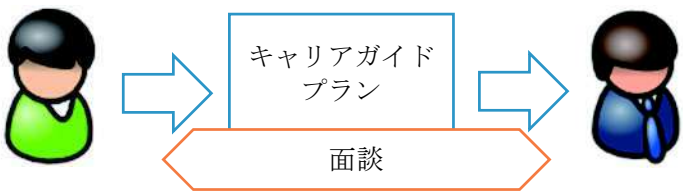


【1 年生の年度初め or 転編入生個別面談】
自分を知るためのアンケートＡを生徒自身がスマホ等で入力
キャリアガイドシステムの画面を見ながら or 印刷して面談



【年に一回の年度初めアンケートＡ経験者の個別面談】
自分を知るためのアンケートＢについても、アンケートＡと同じくスマホ等で入力、入力内容を使って面談

【年に複数行う面談】



3. 画面表示のビジュアル化

- グラフを使える部分はグラフにする。

  「今学校での生活について」はレーダーチャートにする。

  過去のアンケート分も一緒に表示して、2 重のレーダーチャートにする。

  それによって、良くなっているかがわかりやすくする。

  グラフを良くしたい ＞ 気持ちも前向きに。という効果がないかなと期待。

  次ページに表示サンプルを載せました。

- 家庭での生活について

  睡眠時間などを見て、「バランスが良いね！」とか、「朝も頑張ろう。」とか、コメントを表示する。具体的なコメント案はまた別途提出します。

- 幸福感について

  1 位～5 位までを文字の大きさを変えて表示してみることで、自分が幸福感を味わっている場所をわかりやすくする。

- 好きなことについて

  好きなことがたくさんあるということがわかるような表示の方法。

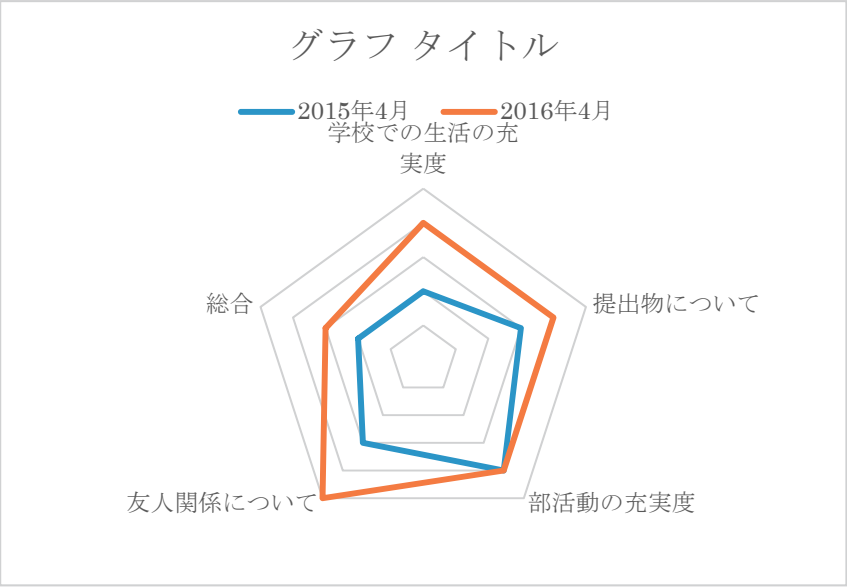
4. 画面表示のビジュアル化の例

- 例　「今学校での生活について」の表示イメージ

【今学校での生活について】

１．学校での生活の充実度	充実している
２．提出物について	期限を守って提出した
３．部活動の充実度	部・サークル名→サッカー 充実度→ 充実している
４．仲の良い友人	同じクラス　　鈴木貫太郎 違うクラス　　吉田茂
５．友人関係について	ほぼ良好
６．好きな授業は何ですか	体育
７．楽しかった行事は何ですか	体育祭

【前回のアンケートとの比較】



Ⅸ. 問合せ先

1. 会社情報・Web サイト

株式会社オープンソース・ワークショップ
住　　所：〒104-0031 東京都中央区京橋 2 丁目 8 番 4 号 オックスフォードビル 2F
電話番号：03-5534-8088
Ｆ　Ａ　Ｘ：03-5534-8188

2. メール

以下のメールアドレスにご質問の内容など記載してお送りください。
担当者より返信致します。

info@opensource-workshop.jp

3. Web サイト

株式会社オープンソース・ワークショップの Web サイトよりお問い合わせできます。

https://opensource-workshop.jp

入学を検討している生徒が参加する体験入学時に実施するアンケートとその際に行われる個別相談内容を記録するものです。

★星槎へようこそ、みなさんの進路を一緒に考えます。

入学相談シート

■太枠の中を出来る限りご記入ください。

ふりがな 名　前		男・女	年齢：
ふりがな 保護者氏名		問い合わせ者 来　校　者	□本人 □保護者（父・母・その他 ） □教育関係（　　）
住　所	（〒　　ー　　）		
電　話 （FAX）		携帯電話	
メール			
学校名	立　　学校　在学中・退学（H　年　月） 学年　　年　担任名：　　先生　（男・女）		
入学区分	□新入　□転入　□編入　□転籍　□フリースクール　□その他（　　）		
どこでお知りになりましたか？	□学校の先生　□新聞・雑誌（誌　名：　　） □ホームページ　□友人・知人（お名前：　　） □学習塾　□その他（　　）		

※本学は、ご記入頂いた個人情報について、資料の発送またはご記入いただいた方へのご連絡のみに使用させていただきます。第三者への開示等それ以外の目的で使用することはありません。

ご記入ありがとうございました。

願書渡し	確認者	SF 入力	日付・担当
／			年　月　日（担当：　　） □資料請求　□問い合わせ　□面談記録

面　談　記　録

回数	日時：　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：　　面談者：
	参加イベント名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

回数	日時：　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：　　面談者：
	参加イベント名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

回数	日時：　　年　　月　　日（　　）　　：　　～　　：　　面談者：
	参加イベント名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

入学が決まった生徒のご家庭に対し、入学手続書類と共に送付し、入学手続き書類と共に提出してもらい、学籍番号と共にデータベース登録します。

基礎情報シート

学籍番号 (入学後記載)		□男 □女	氏　　名		
担当者	入学前（1st）	入学前（2nd）	入学前（3rd）	既往症等	
不登校歴	□なし	□あり　⇒⇒⇒	いつから	から	
被いじめ歴	□なし	□あり　⇒⇒⇒	いつ頃		
問題行動	□なし	□あり　⇒⇒⇒	具体的に (いつ頃)		
入学	□（私国県区市町村）立　（　　）中学				
	□（私公）立　（　　）高校　（　　）年次 （　　）月				
	転編理由　□不登校　□原級留置　□転居　□いじめ　□成績不振 （複数可）□その他 （　　）				
	志望理由　□				

■学校で一番話す人は？　（□中学校　□前籍校）　□に順番を記入

□友達　□先生（□担任　□教科（　　）　□保健　□その他（　　））
□先輩　□後輩　□いない

■家庭で一番話す人は？　□に順番を記入

□父　□母　□兄　□弟　□姉　□妹　□祖母　□祖父　□その他（　　）　□いない

■面談時の様子

1. 面談時に笑顔はありましたか　□あった　□なかった
2. 面談時に目を合わすことはできましたか　□できた　□できなかった
3. 書字・識字に問題はありましたか　□なかった　□あった（　　）
4. 何に一番興味がありそうでしたか

5. どのようにここを知りましたか

□HP　□先生　□友人　□先輩　□その他（　　）

6. その他特記事項

■幸福感について

1．一番幸せだったと感じた時期はいつですか。（おおよその年齢に○をつける）

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

2．どのようなところにいたとき幸せと感じましたか。（順番を□の中に数字で書いてください）

①家にいるとき　②学校にいるとき　③塾にいるとき　④外にいるとき　⑤その他

1位		2位		3位		4位		5位	

⑤「その他」の内容（　　）

3．どのようなことがあった時幸せと感じましたか。（順番を□の中に数字で書いてください）

①欲しいものが手に入った時　②ありがとうと言われた時　③お腹がいっぱいになった時

④笑顔を見たとき　⑤その他

1位		2位		3位		4位		5位	

⑤「その他」の内容（　　）

4．その時に比べて、今の幸せレベルは？

MIN（最小）	1	2	3	4	普通	6	7	8	9	MAX（最大）

■学習について（中学校）

1．中学校の時好きだった科目は？

国語	数学	理科	社会	英語	体育	美術	音楽	技術家庭

2．中学校の時嫌いだった科目は？

国語	数学	理科	社会	英語	体育	美術	音楽	技術家庭

3．学校以外での学習　（　ア．塾　イ．家庭教師　ウ．通信教育　エ．特にしていない　）

■好きなことについて（現在）番号に○を付ける

1．たくさん友達をつくる　2．計算をする　3．外で動物と一緒にいる　4．図や絵をかく

5．気になったことをつきとめる　6．本や雑誌を読むこと　7．動き回る　8．音楽を聴く

9．グループに参加する　10．質問すること　11．地理の勉強　12．空想すること

13．自分のペースでやること　14．文章を書くこと　15．細かい作業　16．楽器を演奏する

17．たくさんの人と話す　18．なぜだろうと思うこと　19．天気予報　20．映画鑑賞

21．一人でいること　22．新聞を読むこと　23．スポーツをすること　24．歌を歌うこと

■将来について/その他

1．卒業後の進路　（　ア．進学希望　イ．就職希望　ウ．わからない　）

2．志望校または就職先　（　　、具体的にはわからない）

3．将来の夢・目標／その他

入学後の早い段階でホームルームの時間などを使い生徒自身に記入してもらう（スマートフォンからも入力可）もので、これを基に年度内に面談を行います。

SEISA

【自分を知るためのアンケートA】

回 答 日	20　　年　　月　　日（　　）	担 任 名	
学籍番号		氏　　名	

答え方　「○をつける」か、「☑する」か、（　　）［　　］内に記入してください。

■今までの生活について

《小学校》

1．小学校はどれくらい楽しかったですか？

MIN（最低）	1	2	3	4	普通	6	7	8	9	MAX（最高）

2．毎日行きましたか

はい、休まなかった	たまに休んだ	よく休んだ	（　　）年生頃から

※よく休んだ人の理由（□勉強　□友達　□先生　□家族　□いじめ　□その他（　　））

《中学校》

3．中学校はどれくらい楽しかったですか？

MIN（最低）	1	2	3	4	普通	6	7	8	9	MAX（最高）

4．毎日行きましたか

はい、休まなかった	たまに休んだ	よく休んだ	（　　）年生頃から

※よく休んだ人の理由（□勉強　□友達　□先生　□家族　□いじめ　□その他）

【その他の理由】

5．熱中したものは？

□部活	
□趣味	
□友だち	
□その他	

6．好きだった科目は？

国語	数学	理科	社会	英語	体育	美術	音楽	技・家	道徳	総合

※好きだった理由（□内容が面白い　□先生が面白い　□テストができた　□その他）

【その他の理由】

7．嫌いだった科目は？

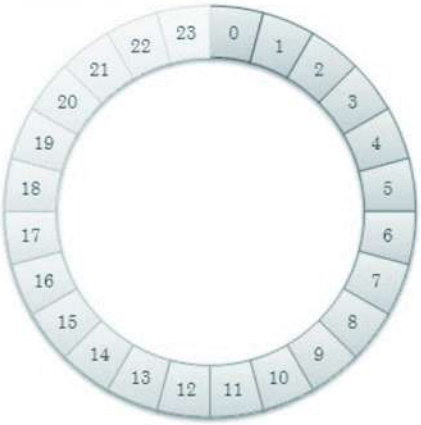
国語	数学	理科	社会	英語	体育	美術	音楽	技・家	道徳	総合

※嫌いだった理由（□内容がつまらない　□先生がつまらない　□テストでできない　□わからなかった

■今学校での生活について

1. 学校での生活の充実度　（ ア. とても充実している イ. 充実している ウ. 充実していない ）
2. 提出物について　（ ア. 期限を守って提出した イ. 時々遅れた ウ. いつも遅れた ）
3. 部活動の充実度（　　部・サークル）
　（ ア. 充実している イ. 充実していない ウ. 部活動をしていない ）
4. 仲の良い友人
　（同じクラス　　）
　（違うクラス　　）
5. 友人関係について　（ ア. 良好 イ. ほぼ良好 ウ. 悩んでいることがある ）
6. 好きな授業は何ですか （　　）
7. 楽しかった行事は何ですか（　　）

■家庭での生活について



1. 普段の1日の生活リズム
※左の図に以下の印をつけましょう

起床就寝時間 ○←→○ だいたい（　　）時間
食事　△
学校　□
熱中していること　☆

2. 熱中しているものは
□スポーツ
□TV
□ビデオゲーム
□カードゲーム
□創作活動
□その他（　　）

3. お小遣いをもらっていますか
□毎週もらっている □毎月もらっている □たまにもらっている □必要な時にもらっている □もらっていない

4. 毎週もらっている人に聞きます。金額はいくらですか。
□1～500 円 □501～1000 円 □1001～3000 円 □3001～5000 円 □5001 円以上（　　円）

5. 毎月もらっている人に聞きます。金額はいくらですか。
□1～500 円 □501～1000 円 □1001～3000 円 □3001～5000 円 □5001 円以上（　　円）

6. アルバイトをしていますか。
□している □以前はしていた □探している □家事手伝い □していない
※補足があれば（　　）

7. アルバイトをしている、アルバイトをしていた人に聞きます。どんな期間ですか。
□長期（1年以上） □中期（3ヶ月以上） □短期（長期休業中） □単発

8. アルバイトをしている、アルバイトをしていた人に聞きます。どんな職種（仕事内容）ですか。複数回答可
□新聞配達 □内職 □接客 □スーパー □コンビニ □スタンド □喫茶店 □販売業 □流れ作業
□弁当仕込み □機械工作 □正月郵便業務スタッフ □イベントスタッフ □家業の手伝い
□その他（　　）

9. アルバイトをしている人、またはお小遣いをもらっている人に聞きます。お金を何にどれくらい使いますか。
1か月でだいたいどれくらい使いましたか。

服	円	本	円
音　楽	円	参考書	円
携帯代	円	ゲーム	円
その他			

10. 1で睡眠時間が5時間未満の人。昼夜逆転している人に聞きます。夜寝ることが出来ない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてにチェックしてください）

□携帯で Line 等などをしているため
□携帯で電話をしているため
□携帯でインターネットをしているため
□携帯でゲームをしているため
□本を読んでいるため
□テレビを見ているため
□ゲームをしているため
□コンピュータでインターネットをしているため
□その他

11. 趣味や打ち込んでいること、習い事は何かありますか。

■進路について

将来の夢

進学希望	□	□将来なりたい仕事のため　□仕事は不明だがより学びたいものがある □（　　）が勧めたので　□何となく
就職希望	□	□仕事内容を知っている　□あこがれ　□これのために準備してきた□
未定	□	□自分のことがよくわからない　□仕事のイメージがわかない

1. 志望校または就職先　（第一志望　　）
（第二志望　　）
（第三志望　　）

2. 将来の夢・目標

3. 進学希望の人に聞きます。受験勉強への取り組みはどうですか。
（ ア. すでに始めている　イ. そろそろ始めるつもり　ウ. まだ始めていない　オ. 始める気がしない）

SEISA

■幸福感について

1．一番幸せだったと感じた時期はいつですか。（おおよその年齢に〇をつける）

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

2．どのようなところにいたとき幸せと感じましたか。（順番を□の中に数字で書いてください）

①家にいるとき　②学校にいるとき　③塾にいるとき　④外にいるとき　⑤その他

1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	

【その他の内容】

3．どのようなことがあった時幸せと感じましたか。（順番を□の中に数字で書いてください）

①欲しいものが手に入った時　②ありがとうと言われた時　③お腹がいっぱいになった時

④笑顔を見たとき　⑤その他

1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	

【その他の内容】

4．その時に比べて、今の幸せレベルは？

MIN (最小)	1	2	3	4	普通	6	7	8	9	MAX (最大)

■好きなことについて（現在）番号に〇を付ける

1．たくさん友達をつくる　2．計算をする　3．外で動物と一緒にいる　4．図や絵をかく
5．気になったことをつきとめる　6．本や雑誌を読むこと　7．動き回る　8．音楽を聴く
9．グループに参加する　10．質問すること　11．地理の勉強　12．空想すること
13．自分のペースでやること　14．文章を書くこと　15．細かい作業　16．楽器を演奏する
17．たくさんの人と話す　18．なぜだろうと思うこと　19．天気予報　20．映画鑑賞
21．一人でいること　22．新聞を読むこと　23．スポーツをすること　24．歌を歌うこと

■その他

担任に知っておいてほしいことや困っていることなど、自由に記入してください。

アンケート A を使った面談を終えた生徒に配布し、その後卒業まで複数回行われる面談にて更新し、記録していきます。

【自分を知るためのアンケートB】

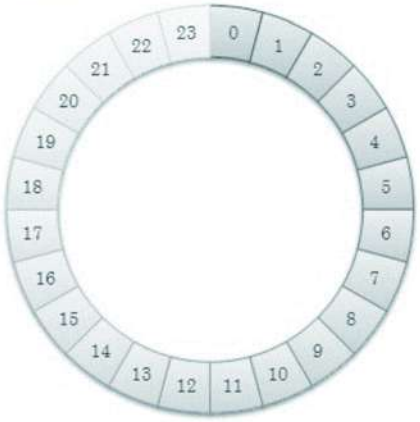
回 答 日	20　　年　　月　　日(　　)	担 任 名	
学籍番号		氏　　名	

答え方　「○をつける」か、「☑する」か、(　　) [　　] 内に記入してください。

■今学校での生活について

1. 学校での生活の充実度　　(ア. とても充実している　イ. 充実している　　ウ. 充実していない)
2. 提出物について　　(ア. 期限を守って提出した　イ. 時々遅れた　　ウ. いつも遅れた)
3. 部活動の充実度(　　部・サークル)
   (ア. 充実している　イ. 充実していない　　ウ. 部活動をしていない)
4. 仲の良い友人
   (同じクラス　　)
   (違うクラス　　)
5. 友人関係について　　(ア. 良好　イ. ほぼ良好　ウ. 悩んでいることがある)
6. 好きな授業は何ですか　(　　)
7. 楽しかった行事は何ですか(　　)

■家庭での生活について



1. 普段の1日の生活リズム
※左の図に以下の印をつけましょう

起床就寝時間　○←→○だいたい(　　)時間
食事　△
学校　□
熱中していること　☆

2. 熱中しているものは
□スポーツ
□TV
□ビデオゲーム
□カードゲーム
□創作活動
□その他(　　)

3. お小遣いをもらっていますか
□毎週もらっている　□毎月もらっている　□たまにもらっている　□必要な時にもらっている　□もらっていない

4. 毎週もらっている人に聞きます。金額はいくらですか。
□1～500 円　□501～1000 円　□1001～3000 円　□3001～5000 円　□5001 円以上(　　円)

5. 毎月もらっている人に聞きます。金額はいくらですか。
□1～500 円　□501～1000 円　□1001～3000 円　□3001～5000 円　□5001 円以上(　　円)

6. アルバイトをしていますか。
□している　□以前はしていた　□探している　□家事手伝い　□していない
※補足があれば(　　)

7. アルバイトをしている、アルバイトをしていた人に聞きます。どんな期間ですか。
□長期(1年以上)　□中期(3ヶ月以上)　□短期(長期休業中)　□単発

8. アルバイトをしている、アルバイトをしていた人に聞きます。どんな職種(仕事内容)ですか。複数回答可
□新聞配達　□内職　□接客　□スーパー　□コンビニ　□スタンド　□喫茶店　□販売業　□流れ作業
□弁当仕込み　□機械工作　□正月郵便業務スタッフ　□イベントスタッフ　□家業の手伝い
□その他(　　)

9. アルバイトをしている人、またはお小遣いをもらっている人に聞きます。お金を何にどれくらい使いますか。
1か月でだいたいどれくらい使いましたか。

服	円	本	円
音　楽	円	参考書	円
携帯代	円	ゲーム	円
その他			

10. 1で睡眠時間が5時間未満の人。昼夜逆転している人に聞きます。夜寝ることが出来ない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてにチェックしてください)
□携帯で Line 等などをしているため
□携帯で電話をしているため
□携帯でインターネットをしているため
□携帯でゲームをしているため
□本を読んでいるため
□テレビを見ているため
□ゲームをしているため
□コンピュータでインターネットをしているため
□その他

11. 趣味や打ち込んでいること、習い事は何かありますか。

■進路について

将来の夢

進学希望	□	□将来なりたい仕事のため　□仕事は不明だがより学びたいものがある □(　　)が勧めたので　□何となく
就職希望	□	□仕事内容を知っている　□あこがれ　□これのために準備してきた□
未定	□	□自分のことがよくわからない　□仕事のイメージがわかない

1. 志望校または就職先　（第一志望　　）
（第二志望　　）
（第三志望　　）

2. 将来の夢・目標

3. 進学希望の人に聞きます。受験勉強への取り組みはどうですか。
（ ア. すでに始めている　イ. そろそろ始めるつもり　ウ. まだ始めていない　オ. 始める気がしない）

■幸福感について

1. 一番幸せだったと感じた時期はいつですか。(おおよその年齢に○をつける)

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

2. どのようなところにいたとき幸せと感じましたか。(順番を□の中に数字で書いてください)
①家にいるとき　②学校にいるとき　③塾にいるとき　④外にいるとき　⑤その他

1位		2位		3位		4位		5位	

【その他の内容】

3. どのようなことがあった時幸せと感じましたか。(順番を□の中に数字で書いてください)
①欲しいものが手に入った時　②ありがとうと言われた時　③お腹がいっぱいになった時
④笑顔を見たとき　⑤その他

1位		2位		3位		4位		5位	

【その他の内容】

4. その時に比べて、今の幸せレベルは？

MIN (最小)	1	2	3	4	普通	6	7	8	9	MAX (最大)

■好きなことについて（現在）番号に〇を付ける

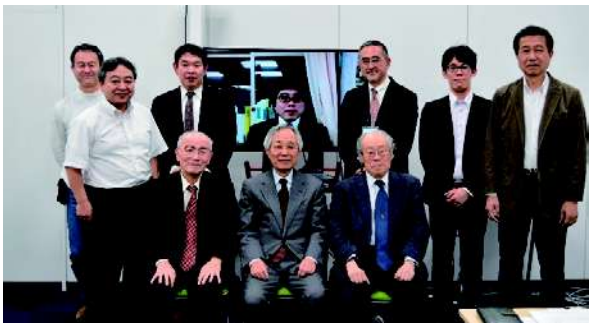
1．たくさん友達をつくる　2．計算をする　3．外で動物と一緒にいる　4．図や絵をかく
5．気になったことをつきとめる　6．本や雑誌を読むこと　7．動き回る　8．音楽を聴く
9．グループに参加する　10．質問すること　11．地理の勉強　12．空想すること
13．自分のペースでやること　14．文章を書くこと　15．細かい作業　16．楽器を演奏する
17．たくさんの人と話す　18．なぜだろうと思うこと　19．天気予報　20．映画鑑賞
21．一人でいること　22．新聞を読むこと　23．スポーツをすること　24．歌を歌うこと

■その他

担任に知っておいてほしいことや困っていることなど、自由に記入してください。

多用な学習支援推進事業に関する検討会議メンバー

平出　彦仁（座長）	星槎大学共生科学部　特任教授
松本　幸広	学校法人国際学園情報企画課　課長
新井　郁男	星槎大学大学院教育学研究科　特任教授
西永　堅	星槎大学大学院教育学研究科　准教授
前田　豊	星槎国際高等学校　校長
牧野　秀昭	星槎国際高等学校　教頭　教務部長 札幌学習センター長
中島　章夫	星槎大学大学院教育学研究科　兼任講師
手島　純	星槎大学共生科学部　教授
古壕　典洋	東京大学大学院教育学研究科　特任教授



多用な学習を支援する高等学校の推進事業
～通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究・開発～
報告書

2018年3月14日

著　者　　多用な学習支援推進事業に関する検討会議
発行者　　学校法人　国際学園
発行元　　学校法人　国際学園